３．地域の避難行動実態のとりまとめ

【地域の被災状況についての凡例】

1 「震災前の人口及び世帯数」は、平成23年2月末現在の釜石市住民基本台帳による。
2 大震災の被害「犠牲者数」は、平成25年1月22日現在、釜石市内で遺体が収容された死亡者数並びに行方不明者で震災時の住民基本台帳の現住所の区分による。
3 大震災の被害 「全壊」は、平成25年1月1日現在、税務課で実施した家屋損壊調査（津波被災分）（以下「家屋損壊調査」という。）のうち、住家（専用住宅、併用住宅及び共同住宅）及び非住家（専用の事務所及び店舗）（以下「住家及び非住家」という。）の合計数である。大震災の被害 「半壊」は、家屋損壊調査のうち、大規模半壊を含む住家及び非住家の合計数である。

3．地域の避難実態（とりまとめ結果）

3.1　東部地区　　(1) 沿岸地区（新浜町、東前町、魚河岸・浜町）

1) 地域の被災状況

<table>
<tr><th rowspan="2">地域名</th><th rowspan="2" colspan="2">震災前の
人口・世帯数
（平成23年2月現在）</th><th colspan="3">大震災の被害</th><th rowspan="2" colspan="2">避難訓練参加者数・参加率
（平成23年3月3日実施）</th></tr>
<tr><th>犠牲者数
（平成25年1月22日）</th><th colspan="2">全壊・半壊家屋数
（平成25年6月現在）</th></tr>
<tr><td>新浜町</td><td>205人</td><td>103世帯</td><td>14人</td><td>全壊72件</td><td>半壊21件</td><td rowspan="2">66人</td><td rowspan="2">11%（対象地区：新浜町・東前町／合算人口：599人）</td></tr>
<tr><td>東前町</td><td>394人</td><td>187世帯</td><td>15人</td><td>全壊116件</td><td>半壊20件</td></tr>
<tr><td>魚河岸</td><td>1人</td><td>1世帯</td><td>0人</td><td>全壊2件</td><td>半壊7件</td><td rowspan="2">149人</td><td rowspan="2">7%（対象地区：浜町・魚河岸・只越町・港町・東前町／合算人口：2,168人）</td></tr>
<tr><td>浜　町</td><td>940人</td><td>447世帯</td><td>38人</td><td>全壊211件</td><td>半壊44件</td></tr>
</table>

2) 震災当日の津波避難行動実態

［A.新浜町］

- ２丁目の沢（岬林道側）、１丁目の沢（滝の沢）の住民は、概ね近隣の１次避難所へ避難した。
- カメイ石油から東前町寄りの住民の中には、東前町の不動沢等の避難所や、浜町方面の実家等に車で移動する方もいた。
- 避難場所の稲荷神社付近は浸水し、階段付近で数名の高齢者が亡くなった。
- 海岸に下がり、海の様子を観察している方もいた。津波が襲来する数分前まで海の近くにおり、急いで近くの高台へ一気に駆け上がった方もいた。
- 堤防に遮られて、海の様子がよく分からなかったため、海岸沿いにある事業所の関係者も、津波が襲来する直前まで仕事をしており、急いで避難した方が多かった。
- 避難の呼び掛けをしたのに自宅に留まり、避難が遅れて流された方、一度高台に避難したが、再度自宅に戻って流された方、体が不自由なために避難できずに流された方、そして、避難させようと高台から救助に戻って流された方がいた。

［B.東前町］

- 地震後、多くの住民は、外に出て周りの様子を見ていた。防災無線を通じた避難の呼びかけなどにより、住民の多くは、はまっこ児童公園、樋ヶ沢下の駐車場等に集まった。
- 尾崎アスレチック公園、不動沢、樋ヶ沢下の住民の多くは高台に住んでいることから、特に避難はしなかった。海の様子を見るため下がってくる住民もいた。
- 地域の道路が狭いため、徒歩で避難した住民が多かった。一方、海岸部の市場、工事関係者の一部は車で地域、地域外に移動した。
- 津波が目前に迫り、裏山へ避難した住民や従業員もいた。急傾斜地に設置されたフェンスをよじ登って難を逃れた高齢者もいた。
- 室内で作業をしていたため、目前まで津波の襲来を知ることができなかった住民もいた。
- 自宅の階上に避難をした。
- はまっこ児童公園の約２m下まで津波が迫ったため、住民や消防団が300mほど高いアスレチック公園に避難誘導した。
- 一度は避難したが「自宅まで津波が来ない」と判断して自宅に戻り流された方、避難を数回にわたり呼び掛けたが避難せずに自宅で流された方がいた。

［C.魚河岸・浜町］

- 「指定避難所より、建物の階上に避難すればよい」という認識があり、建物の階上、屋上等に避難する方がいた。【浜町１丁目】
- 多くの住民は、津波襲来直後、各自の判断で「はまっこ児童公園」に緊急避難した。津波の襲来は、ある程度予測できたが、まさかここまで大きな津波だとは思わなかった。高齢者等を背負って避難する住民もいた。津波が避難所付近まで押し寄せてきたので、更に高台の尾崎アスレチック公園に移動避難した。【浜町２丁目】
- 地震後、消防団等の呼び掛けにより、浜町の住民の多くは尾崎アスレチック公園、尾崎神社方面、避難道路浜町東側口等の高台に移動した。その後、尾崎神社、幸楼等に集まった。避難道路を通じて、市役所や旧一中に避難する住民もいた。尾崎神社の高台方面の道路に車で避難する方も多くいた。【浜町３丁目】

3) 震災以前の備え

［A.新浜町］

- 昭和 63 年 11 月に自主防災組織を設置した。
- ３月３日の避難訓練に参加していたが、それ以外での独自の取り組みはなかった。
- 婦人消防団が、平成 22 年 12 月に地域の災害時要援護者を把握する調査を実施したり、独自に緊急一時避難場所を確保するための交渉等を行ったりしていた。
- 水門のメンテナンスも地域で定期的に実施していた。

［B.東前町］

- 平成８年 10 月に自主防災組織を設置したが、地域単独で津波避難に関する訓練は行っていなかった。消防団の呼び掛けで初めて訓練に参加する方も多く、津波避難への関心度は比較的薄かった。
- 過去に経験したチリ地震津波等では大きな被害もなく、危機意識も薄れており、避難訓練への積極的な参加は少なかった。

［C.魚河岸・浜町］

- 平成 21 年５月に自主防災組織を設置し、町内役員で、避難を呼び掛ける担当ゾーンをあらかじめ決めていたが、今回の震災では機能する暇がなかった。【浜町１丁目】
- 震災後の平成 24 年 12 月に設置した。３月３日の防災訓練には、地域で 20～30 名参加していた。避難訓練に際して地元青年会も協力していた。【浜町２丁目】
- 平成 19 年 11 月に設置した。主な災害想定は、土砂崩れ、台風被害であった。町内会、消防団では、釜石漁協までけが人を担架で搬送する訓練を過去に行ったことがある。【浜町３丁目】
- 避難場所のアスレチック公園は高台にあり、３月３日の避難訓練は時期的にも寒いことから、高齢者には訓練参加が負担と感じていた。
- 避難訓練の実施時期が冬であったため、高齢者はほとんど参加していなかった。
- 避難訓練の際に、避難場所を指定避難場所以外にして実施してしまっていた。【浜町３丁目】

4) 問題点・課題の整理

［A.新浜町］

- 海沿いの地域で水門が多いため、地震後すぐに水門を閉めることができるように、メンテナンスや対応する担当者の意識を高めておくことが必要。
- とにかく高い所へ避難することを徹底する。

［B.東前町］

- 過去の津波浸水実績や想定にとらわれず、とにかく高台へ避難することを徹底する。

［C.魚河岸・浜町］

・「自宅にいれば大丈夫」という認識を捨て、まずは高台へ避難することを地域で徹底しておく。
・「訓練のための訓練」をしない。

釜石市東日本大震災検証報告書
【津　波　避　難　行　動】編

1　東部地区
（1）沿岸地区（A. 新浜町）

地域懇談会（2013.10.7実施）および追加聞き取り調査（2014.1.27実施）の聞き取り結果に基づいて作成した。

◆東日本大震災における津波について

：津波到達範囲の境界線

津波の流れや大きさ

◆避難の様子について

主な避難経路や避難の様子

◆町内会の境界について

：町内会の境界線

：町丁目・地割の境界線

◆避難場所について

避難場所の名称

【指定】	：東日本大震災の前に釜石市が指定一次避難場としていた場所
【訓練】	：東日本大震災の前に避難訓練用として利用
【当日避難】	：東日本大震災の当日に避難した場所
【指定廃止】	：東日本大震災のあとに指定を廃止した場所
【新指定】	：東日本大震災のあとに新たに指定した場所

◆その他

主な地域の施設など

※ゼンリン住宅地図データベース（2008年1月版）を使用して作成した

N

約30名が避難した。

滝の沢高台
【指定】・【当日避難】

10数名が避難した。
車で避難した人もいた。

岬林道
【指定】・【当日避難】

企業の従業員も数名避難した。

空き地
【当日避難】

道路工事の関係者が
数名避難した。

高台
【当日避難】

広場（駐車場）
【訓練】・【当日避難】

裏山を通って
避難した人もいた。

高台
【当日避難】

浸水したが、数名が避難した。
避難が間に合わず犠牲になった人もいた。

佐々木家稲荷神社
【指定】・【当日避難】

避難道路
【訓練】

稲荷神社前の駐車場
【訓練】

新浜町１丁目

新浜町２丁目

カメイ石油 油槽所

阪神低温

防災無線

防災無線

東前町方向へ車で避難した人もいた。

引き潮によって海の底が見え、
その後、波が下から湧いてくるように見えた。
東前町側から溢れてきた。

0　50　100 m

釜石市東日本大震災検証報告書
【津　波　避　難　行　動】編

1　東部地区
(1)　沿岸地区（A. 新浜町）

地域懇談会（2013.10.7実施）および追加聞き取り調査（2014.1.27実施）の聞き取り結果に基づいて作成した。

◆東日本大震災における津波について

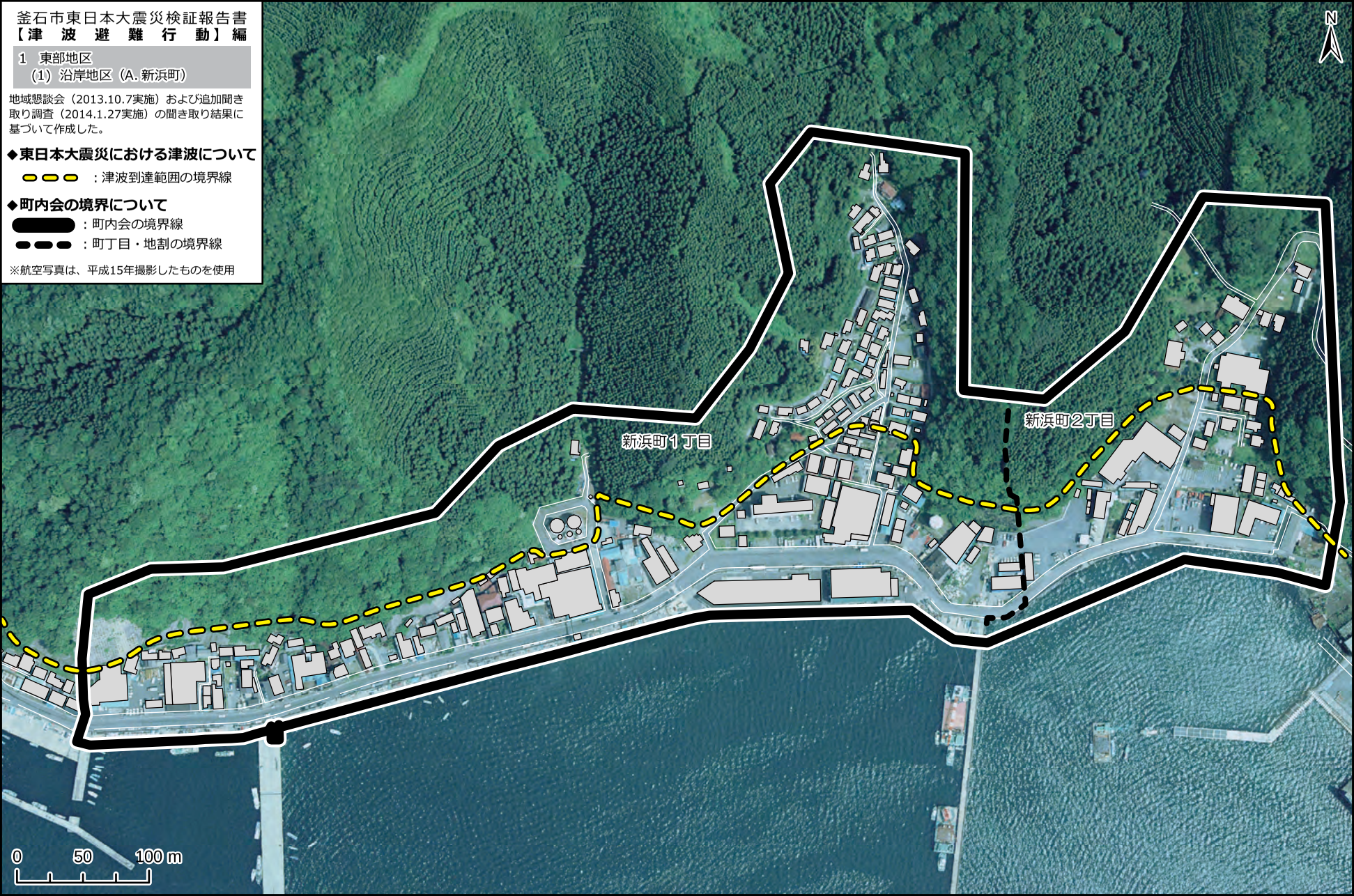
：津波到達範囲の境界線

◆町内会の境界について

：町内会の境界線

：町丁目・地割の境界線

※航空写真は、平成15年撮影したものを使用



釜石市東日本大震災検証報告書
【津　波　避　難　行　動】編
1　東部地区
(1)　沿岸地区（B. 東前町）
地域懇談会（2013.10.7実施）および追加聞き取り調査（2014.1.30実施）の聞き取り結果に基づいて作成した。
◆東日本大震災における津波について
：津波到達範囲の境界線
津波の流れや大きさ
◆避難場所について
避難場所の名称
【指定】：東日本大震災の前に釜石市が指定一次避難場としていた場所
【訓練】：東日本大震災の前に避難訓練用として利用
【当日避難】：東日本大震災の当日に避難した場所
【指定廃止】：東日本大震災のあとに指定を廃止した場所
【新指定】：東日本大震災のあとに新たに指定した場所
◆避難の様子について
主な避難経路や避難の様子
◆町内会の境界について
：町内会の境界線
：町丁目・地割の境界線
◆その他
主な地域の施設など
※ゼンリン住宅地図データベース（2008年1月版）を使用して作成した
N
東前不動沢
【指定】・【当日避難】
主に不動沢下の住民が避難した。
尾崎アスレチック公園
【指定】・【当日避難】
津波来襲時、約50名が避難。下の階段に座って海の様子を見ている人もいた。
はまっこ児童公園
【指定】・【当日避難】
大勢の住民が避難した。公園の高さの少し下まで波が到達したため、更に高台へ避難した。
防災無線
今瀧神社
数名が避難し、海の様子を見ていた。このあたりまで逃げれば安全だという意識があった。
高台
【当日避難】
東前樋が沢
【指定】・【当日避難】
徒歩で避難した高齢者も多く、中には若者に背負われて助かった高齢者もいた。
釜石魚市場
駐車場
【訓練】・【当日避難】
近くの住民が避難。高台に上がるには体力が必要なので、通常の訓練時にはこの付近に集まっていた。
急勾配な場所だったが、フェンスをよじ登る人もいた。
佐々木家稲荷神社
【指定】・【当日避難】
新浜町の避難者が多かった。津波が迫り、住民同士で上に引っ張り上げた。避難が間に合わず流された人もいた。昔、人がここへ避難して助かった話を聞いた。
近くの山へ上がり、藪の中を必死で逃げた人もいた。
カメイ釜石支店
防災無線
浜町側からも黒く泡立つ濁流が来襲した。
この付近で波が渦巻き、船も回転していた。湾口が狭く、引き波が出ていくのに時間を要した。
新浜町側からも黒く泡立つ濁流が来襲した。
多方向から津波が来襲した。
0
50
100 m

釜石市東日本大震災検証報告書
【津　波　避　難　行　動】編

1　東部地区
（1）沿岸地区（B. 東前町）

地域懇談会（2013.10.7実施）および追加聞き取り調査（2014.1.30実施）の聞き取り結果に基づいて作成した。

◆東日本大震災における津波について

：津波到達範囲の境界線

◆町内会の境界について

：町内会の境界線

：町丁目・地割の境界線

※平成15年撮影の航空写真を使用

釜石市東日本大震災検証報告書
【津　波　避　難　行　動】編

1　東部地区
(1)　沿岸地区（C. 魚河岸・浜町）

地域懇談会（2013.10.7実施）および追加聞き取り調査（2014.1.17，1.30，2.2実施）の聞き取り結果に基づいて作成した。

◆東日本大震災における津波について

：津波到達範囲の境界線

津波の流れや大きさ

◆避難の様子について

主な避難経路や避難の様子

◆町内会の境界について

：町内会の境界線

：町丁目・地割の境界線

◆避難場所について

避難場所の名称

【指定】	：東日本大震災の前に釜石市が指定一次避難場としていた場所
【訓練】	：東日本大震災の前に避難訓練用として利用
【当日避難】	：東日本大震災の当日に避難した場所
【指定廃止】	：東日本大震災のあとに指定を廃止した場所
【新指定】	：東日本大震災のあとに新たに指定した場所

◆その他

主な地域の施設など

※ゼンリン住宅地図データベース（2008年1月版）を使用して作成した

N

尾崎神社 境内
【指定】・【当日避難】

約20名が避難した。
車避難者も多かった。

浜町避難道路 浜町東側口
【指定】・【当日避難】

浜町避難道路 西圓タクシー口
【指定】・【当日避難】

浜町避難道路 天王山口
【指定】・【当日避難】

稲荷神社
【当日避難】

浜町

浜町３丁目

約30名が避難した。
浜町のほか、東前町、尾崎町からも避難した。

尾崎アスレチック公園
【指定】・【当日避難】

はまっこ児童公園
【指定】・【当日避難】

尾崎町では、
数10名が避難した。

約20名が避難してきた。
以前から、地域では屯所を避難場所に決めていた。

屯所前広場

西圓タクシー口から
更に狐崎の上に
避難した人もいた。

浜町１丁目

約60～70名が避難。
その後、市役所へ避難した人もいた。避難道路に車で避難した人もいた。

防災無線

危険が迫り、更に
尾崎アスレチック公園に
移動した。

浜町２丁目

防災無線

水門の隙間から津波が
勢いよく噴き出していた。

魚河岸

釜石魚市場

魚市場の２階の窓から勢いよく
津波が噴き出して、
ナイアガラの滝のようであった。

市営釜石ビル
【避難ビル】
【訓練】・【当日避難】

釜石港の底一面が見え、
津波が渦巻いていた。

車が浮いて、漂流していた。

第２波、第３波で津波が水門を越え、
家が流された。

湾内の大型貨物船が
行ったり来たりしていた。

0　50　100 m

釜石市東日本大震災検証報告書
【津　波　避　難　行　動】編

1　東部地区
(1)　沿岸地区（C. 魚河岸・浜町）

地域懇談会（2013.10.7実施）および追加聞き取り調査（2014.1.17，1.30，2.2実施）の聞き取り結果に基づいて作成した。

◆**東日本大震災における津波について**

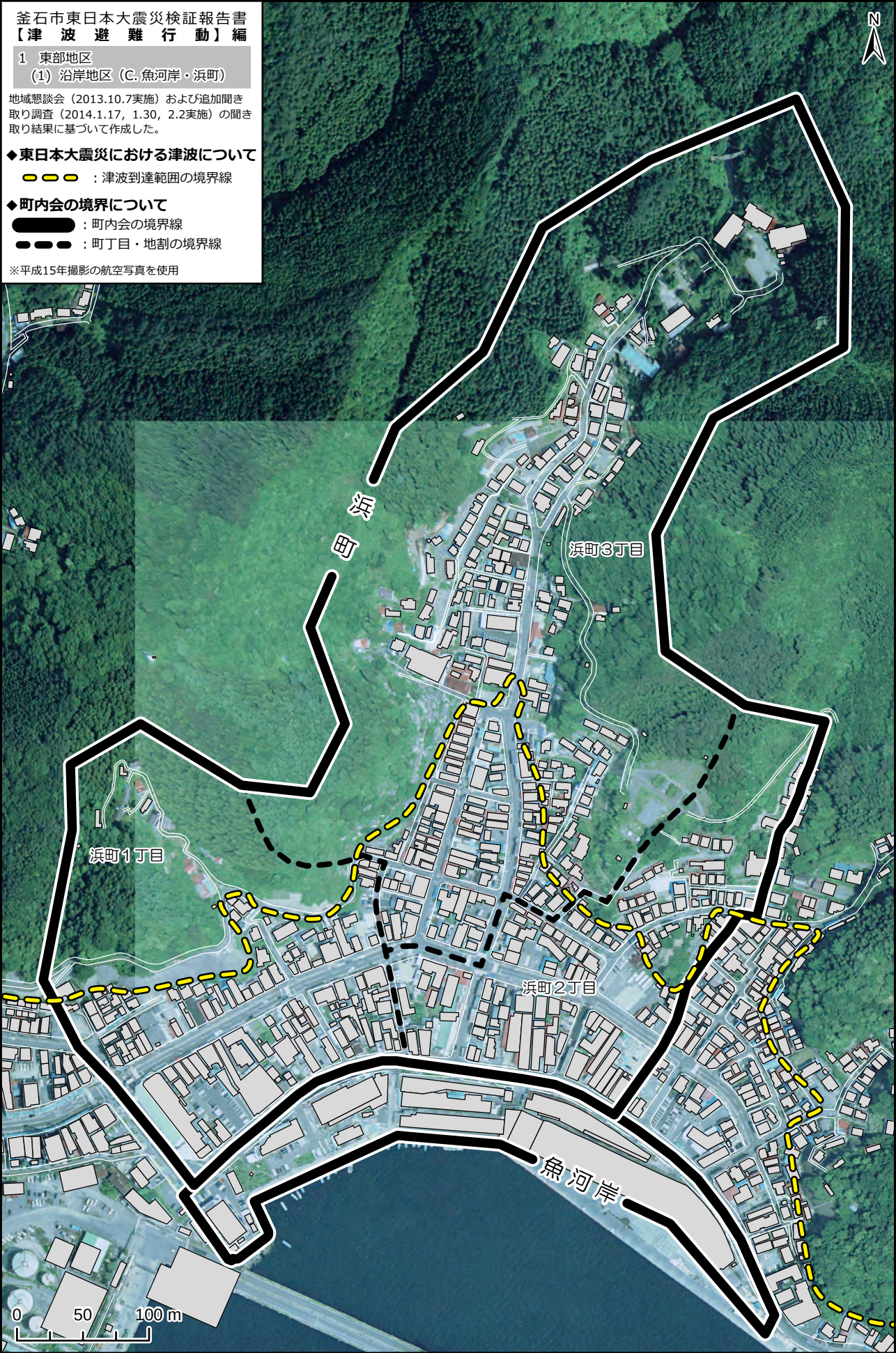
：津波到達範囲の境界線

◆**町内会の境界について**

：町内会の境界線

：町丁目・地割の境界線

※平成15年撮影の航空写真を使用



3．地域の避難実態（とりまとめ結果）

3.1　東部地区　　(2) 市街地区（港町、只越町、天神町、大只越町、大町、大渡町、鈴子町、駒木町）

1) 地域の被災状況

地域名	震災前の人口・世帯数（平成23年2月現在）		大震災の被害			避難訓練参加者数・参加率（平成23年3月3日実施）	
			犠牲者数（平成25年1月22日）	全壊・半壊家屋数（平成25年6月現在）			
港　町	129人	57世帯	6人	全壊78件	半壊17件	103人	18%（対象地区：松原町・港町／合算人口：583人）
只越町	704人	341世帯	47人	全壊272件	半壊48件	149人	7%（対象地区：浜町・魚河岸・只越町・港町・東前町／合算人口：2,168人）
天神町	258人	119世帯	3人	全壊8件	半壊21件		
大只越町	825人	388世帯	0人	全壊3件	半壊26件		
大　町	574人	287世帯	20人	全壊146件	半壊98件	102人	8%（対象地区：只越町・大町／合算人口：1,278人）
大渡町	594人	282世帯	12人	全壊86件	半壊101件	61人	5%（対象地区：大町・大渡町・駒木町／合算人口：1291人）
鈴子町	92人	52世帯	0人	全壊1件	半壊11件	14人	15%（対象地区：鈴子町）
駒木町	123人	61世帯	2人	全壊0件	半壊6件	61人	5%（対象地区：大町・大渡町・駒木町／合算人口：1,291人）
						37人	30%（対象地区：駒木町）

2) 震災当日の津波避難行動実態

［A.港町］

- 多くの住民は釜石港湾事務所等、高層階の建物や屋上へ避難した。
- １丁目の住民のうち数名は陸中海岸グランドホテルへ、その他はグレーンセンターや中番庫内の石炭山等に避難した方もいた。
- ２丁目の住民の多くは、釜石港湾事務所へ避難した。
- 地震後、いち早く車で他地区に避難する方もいた。
- チリ地震津波の際には防波堤を波が越える程度であったため、住民内で津波に対する警戒心が薄れていたと考えられる。
- 亡くなった方は身体の不自由な方ではなく健常者であった。

［B.只越町］

- 高台に避難した住民や建物の高所にいた住民が、逃げ遅れている方に津波の襲来を知らせ、早急に高台に上るよう呼び掛けていた。
- 危険を察知した住民の一部が「津波だ」と周囲に呼び掛けたが、直ちに誰も逃げない場面もあった。
- まさかここまで来ると思わず自宅付近で避難すべきか迷っていたが、市役所方向から「逃げろ」という叫び声が聞こえ、我に返って避難した。

- 多くの住民は、目前に迫る津波を確認するまで、避難行動を取らなかった。
- 避難する意識より、海の様子を確認することが目的で、高台に集まってきた住民もいた。
- 大通りが車で渋滞していることから、裏通りを選び、そこを通って避難する住民もいた。
- 野外の避難場所を避けて、自宅の階上や屋内施設に避難する住民もいた。
- 主な避難先は、避難道路方向（天王山口、高架橋口）、市役所第１庁舎、旧一中方向（宝樹寺、仙寿院）であった。

［C.天神町］

- 地震後、一部の住民は、近隣の天神児童公園に集まり、周囲の様子を見ていた。その後、公園に留まった方、家の片づけをするため自宅に戻った方もいた。
- 公園に留まった方の中には、高台の仙寿院からの「津波だ。逃げろ」の声を聞いて、旧一中に避難した方もいた。
- ここまで津波は来ないと思っていたので、避難する緊迫感、危機意識が薄かった。
- 自宅に留まった方は、２階に避難して、後に救助された。

［D.大只越町］

- 地震発生後、すぐに危険を感じて避難を呼び掛ける住民は少なかった。
- 大部分の住民は、「大只越町は避難先である」という認識を持っていた。そのため、地震後も自宅に留まった方が多く、速やかな避難行動に結びつきにくかった。
- 津波到達時、波打ち際は勢いが弱かったことから、津波が目前に迫ってから避難した方もいた。一時退避したものの再び戻り、津波の様子を見ていた方もいた。
- 青葉ビル、青葉公園に避難してきた方は、津波がそこまで到達してしまったため、さらに高台へ避難した。
- 市街地に近いこともあり、地域外の住民も、数多く町内の指定避難場所に避難してきた。

［E.大町］

- あれほど大きな揺れを感じたにもかかわらず、津波の襲来を想起せず、避難の開始が遅れた住民が多数いた。
- 地震発生後、一部の住民は比較的早めに青葉児童公園、薬師公園等の避難場所に避難したが、地震から 30 分余り経過したことから、家の戸締まりなどが気になり自宅に引き返した方もいた。
- 渋滞の中、ガレキが迫るのを見て、急いで車を乗り捨てて、高台に避難する方もいた。
- 一度避難したものの、家族を心配し、自宅に戻り流された方、自宅の階上に一時避難するものの、階下に下がり流された方がいた。
- 堅牢な自宅の２階に待機していれば助かったのに、避難所への移動の途中で流されてしまった方もいた。
- 犠牲者の中には、「湾口防波堤の完成により、津波は来ない」と日頃から言っていた方もいた。

［F.大渡町］

- 地震の揺れがある程度収まった後、多数の住民が家の外に出てお互いの無事を確認した。甲子川が近接していることから、遡上する津波の襲来を直感し、多くの住民は、比較的速やかに高台の避難所に避難した。自宅の階上に避難する方もいた。
- 市街地のため、地域外を含む車での通行者等も多数おり、津波襲来直前、大通りでは車が渋滞した。車から離れて高台、近隣建物の階上へ移動した方、バスの屋根に避難して一命を取り留めた方もいた。車の中からは、地域外の身元の遺体が多数確認された。
- 町内会からの避難の声がけに応じず、地震後も自宅や店舗に留まり、流された方も多かった。
- 甲子川の様子を確認して、自宅に戻ったところで流されたり、自宅の２階へ避難したが、物を取りに１階へ下がったため流されたりした方もいた。

［G.鈴子町］

- 地震直後、多くの住民は家屋の外に出て、比較的早い時期にお互い声をかけあいながら、避難場所のシープラザ遊に移動した。
- 一部の高齢者のみの世帯等では、自宅に留まっていた方もいた。

［H.駒木町］

- 地震後、近隣の住家同士、駐車場等の広場に集まり、甲子川の様子を見ていた。川沿いの住家では、比較的早い時間に指定避難場所や高台に移動する方もいた。ただし、津波到達まで時間があったことから、再び自宅に物を取りに戻った方や、川沿い付近まで下がり、津波が遡上する様子を見ていた方もいた。
- 地震後、指定避難場所ではなく、高台にある知人の家へ避難した方もいた。

3) 震災以前の備え

［A.港町］

- リアカーを買って、避難支援に使うなど、津波避難を円滑に行うために地域独自で様々なことを検討していた。
- 地形上周囲に高台がなく、矢の浦橋方面へ行くのも桟橋方面へ行くのも川があり危ないことから、避難訓練の際にはバス停前のゲートボール場を避難場所としていた。
- 町内会では陸中海岸グランドホテル、グレーンセンターに対して一次避難場所の協力を口頭でお願いしていた。
- 釜石港湾事務所では避難のための外付階段を設置する予定があり、そのことを震災直前の津波避難訓練時に住民に周知していた。そのことが、今回の震災時において同所に住民が集まる契機になったと考える。

［B.只越町］

- ３月３日の訓練参加を回覧版により呼び掛けていたが、避難場所の人数を確認する程度で、避難の途中で笑ったりするなど緊張感に欠けていた。
- 津波避難訓練に参加する以外には、特に町内で取り組んでいることはなかった。

［C.天神町］

- 避難についての取り決めは、地域としては特にしておらず、３月３日の訓練も各自の都合で参加し、７、８人程度しか参加していなかった。

［D.大只越町］

- 自主防災組織は設置していなかった。地域では津波防災はほとんど考えられてこなかった。
- 避難訓練の際に、指定避難場所以外の場所（大只越集会所）を避難先として使ってしまっていた。

［E.大町］

- 地域として自主的な避難訓練を実施したことはなく、３月３日の避難訓練に参加する程度であった。
- 釜石小学校では、群馬大の協力により防災教育を行っており、防災講演会に参加していた。その成果もあって、津波襲来時に子どもに避難を促されて行動した住民もいた。

［F.大渡町］

- 平成６年３月に自主防災組織を設置して、日頃から地域一体となって防災活動に取り組んできた。
- ３月３日の避難訓練では、町内会で参加を呼び掛けていた。また、釜石小学校が津波避難訓練を実施する際には地域で協力していた。

［G.鈴子町］

- 震災直後の４月に自主防災組織を設立する予定であった。主に集中豪雨等の水害を想定していた。
- ３月３日の避難訓練では、一世帯から一人は参加することが慣習となっていた。

［H.駒木町］

- ３月３日の避難訓練には、積極的に地域で参加していた。特に川沿いの住家では、大部分の方が参加していた。
- 町内会として、避難に関して特別な取り決めはしていなかったが、比較的世帯数が少ない町内会なので、お互いの連絡が行き届いていた。

4) 問題点・課題の整理

［A.港町］

- 過去の被災状況にとらわれて、津波に対する警戒心が薄れてしまわないように徹底する。
- 高層の建物への避難だけでなく、高台へ避難することができるように避難経路の確認や訓練を行う。

［B.只越町］

- 震災以前は日頃からの津波に対する意識が低かったことから、今後は避難訓練への参加や町内会が中心となった地域単位での取り組みを推進する必要がある。
- 地震発生後、すぐに避難することを徹底し、建物内への避難ではなく、高台への避難を徹底する。

［C.天神町］

- 只越町と同じ。

［D.大只越町］

- 「訓練のための訓練」はしないことを徹底する。
- 市街地に出かけてきている地域外の住民（来訪者）も地域内の避難所に避難してくることを想定し、避難誘導方法等について地域で検討しておく。

［E.大町］

- 一度避難したら、自宅に戻ったりしないことを徹底する。
- 避難渋滞が発生することを念頭におき、来訪者の避難誘導方法等を地域で検討しておく。

［F.大渡町］

- 大町と同じ。

［G.鈴子町］

［H.駒木町］

- 地震の発生から津波襲来までにある程度の時間があることを踏まえ、一度避難したら戻らないこと（避難場所での待機）を徹底する。
- 日頃からの地域のつながり・まとまりを今後も継続していく。

釜石市東日本大震災検証報告書
【津　波　避　難　行　動】編

1　東部地区
（2）市街地区（A. 港町）

地域懇談会（2013.10.7実施）および追加聞き取り調査（2014.1.20実施）の聞き取り結果に基づいて作成した。

◆東日本大震災における津波について

：津波到達範囲の境界線

津波の流れや大きさ

◆避難の様子について

主な避難経路や避難の様子

◆町内会の境界について

：町内会の境界線

：町丁目・地割の境界線

◆避難場所について

避難場所の名称

【指定】	東日本大震災の前に釜石市が指定一次避難場としていた場所
【訓練】	東日本大震災の前に避難訓練用として利用
【当日避難】	東日本大震災の当日に避難した場所
【指定廃止】	東日本大震災のあとに指定を廃止した場所
【新指定】	東日本大震災のあとに新たに指定した場所

◆その他

主な地域の施設など

※ゼンリン住宅地図データベース（2008年1月版）を使用して作成した

釜石市東日本大震災検証報告書
【津　波　避　難　行　動】編

1　東部地区
(2)　市街地区（A. 港町）

地域懇談会（2013.10.7実施）および追加聞き取り調査（2014.1.20実施）の聞き取り結果に基づいて作成した。

◆東日本大震災における津波について

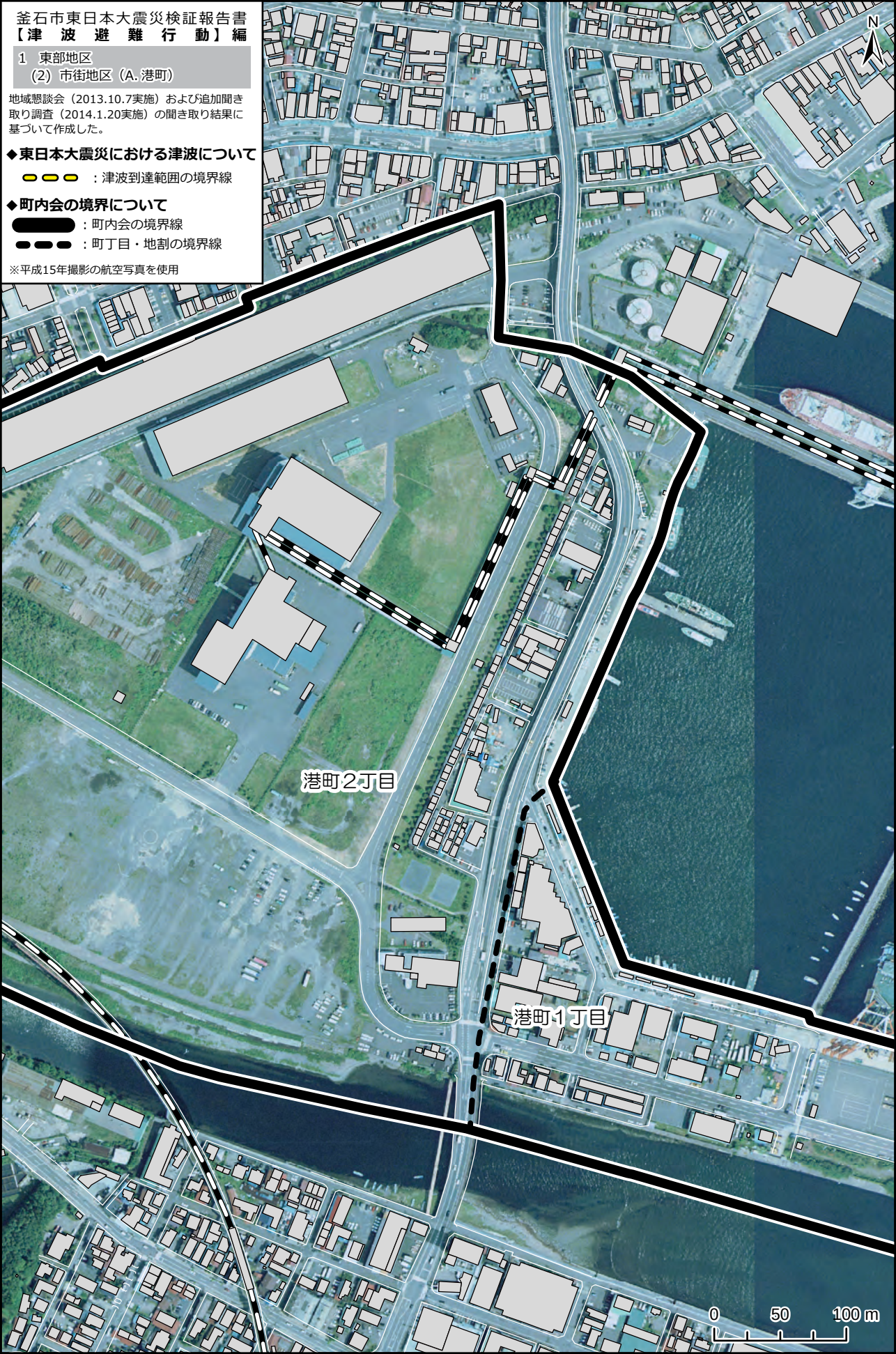
：津波到達範囲の境界線

◆町内会の境界について

：町内会の境界線

：町丁目・地割の境界線

※平成15年撮影の航空写真を使用



釜石市東日本大震災検証報告書
【津　波　避　難　行　動】編

1　東部地区
（2）市街地区（B. 只越町）

地域懇談会（2013.10.7実施）および追加聞き取り調査（2014.1.28および2014.2.4実施）の聞き取り結果に基づいて作成した。

◆東日本大震災における津波について

：津波到達範囲の境界線

津波の流れや大きさ

◆避難の様子について

主な避難経路や避難の様子

◆町内会の境界について

：町内会の境界線

：町丁目・地割の境界線

◆避難場所について

避難場所の名称

【指定】	：東日本大震災の前に釜石市が指定一次避難場としていた場所
【訓練】	：東日本大震災の前に避難訓練用として利用
【当日避難】	：東日本大震災の当日に避難した場所
【指定廃止】	：東日本大震災のあとに指定を廃止した場所
【新指定】	：東日本大震災のあとに新たに指定した場所

◆その他

主な地域の施設など

※ゼンリン住宅地図データベース（2008年1月版）を使用して作成した

釜石小学校も含めて、約300名が避難した。
最終的には約1,000名が避難した。
浜町からの避難者もいた。

旧 釜石第一中学校 校庭
【指定】・【当日避難】

旧 釜石小学校 校庭
【指定】・【当日避難】

階段の5～6段上まで波が来た。
「上がれ」と叫んで、避難を誘導した人がいた。
車を置いて、仙寿院に避難した人が多かった。

仙寿院
【指定】・【当日避難】

宝樹寺
【指定】・【当日避難】

浜町避難道路
浜町東側口
【指定】・【当日避難】

浜町避難道路
高架橋口
（只越口）
【指定】・【当日避難】

浜町避難道路
西圓タクシー口
【指定】・【当日避難】

浜町避難道路では落石や山が崩れる恐れがあったため、金網寄りに避難した。

浜町避難道路
天王山口
【指定】・【当日避難】

防災無線

市役所

只越町３丁目

只越町２丁目

只越町１丁目

市民文化会館

市営釜石ビル
【避難ビル】
【訓練】・【当日避難】

防災無線

火事と見間違うほど、
津波の水飛沫が
白くあがっていた。

波が衝突して２手に分かれた。
特に左方向の勢いがすさまじかった。

製鐵所の壁などを破壊しながら、
津波がなだれ込んできた。
汐立川を遡上して、
オカムラの建物工場をなぎ倒した。

真黒い濁流が音もなく押し寄せてきた。
汐立川が増水して溢れていた。

甲子川方面、中番庫、桟橋方面から
津波が来襲した。
各所で津波が渦巻いた。

0　50　100 m

N

釜石市東日本大震災検証報告書
【津　波　避　難　行　動】編

1　東部地区
（2）市街地区（B. 只越町）

地域懇談会（2013.10.7実施）および追加聞き取り調査（2014.1.28および2014.2.4実施）の聞き取り結果に基づいて作成した。

◆東日本大震災における津波について

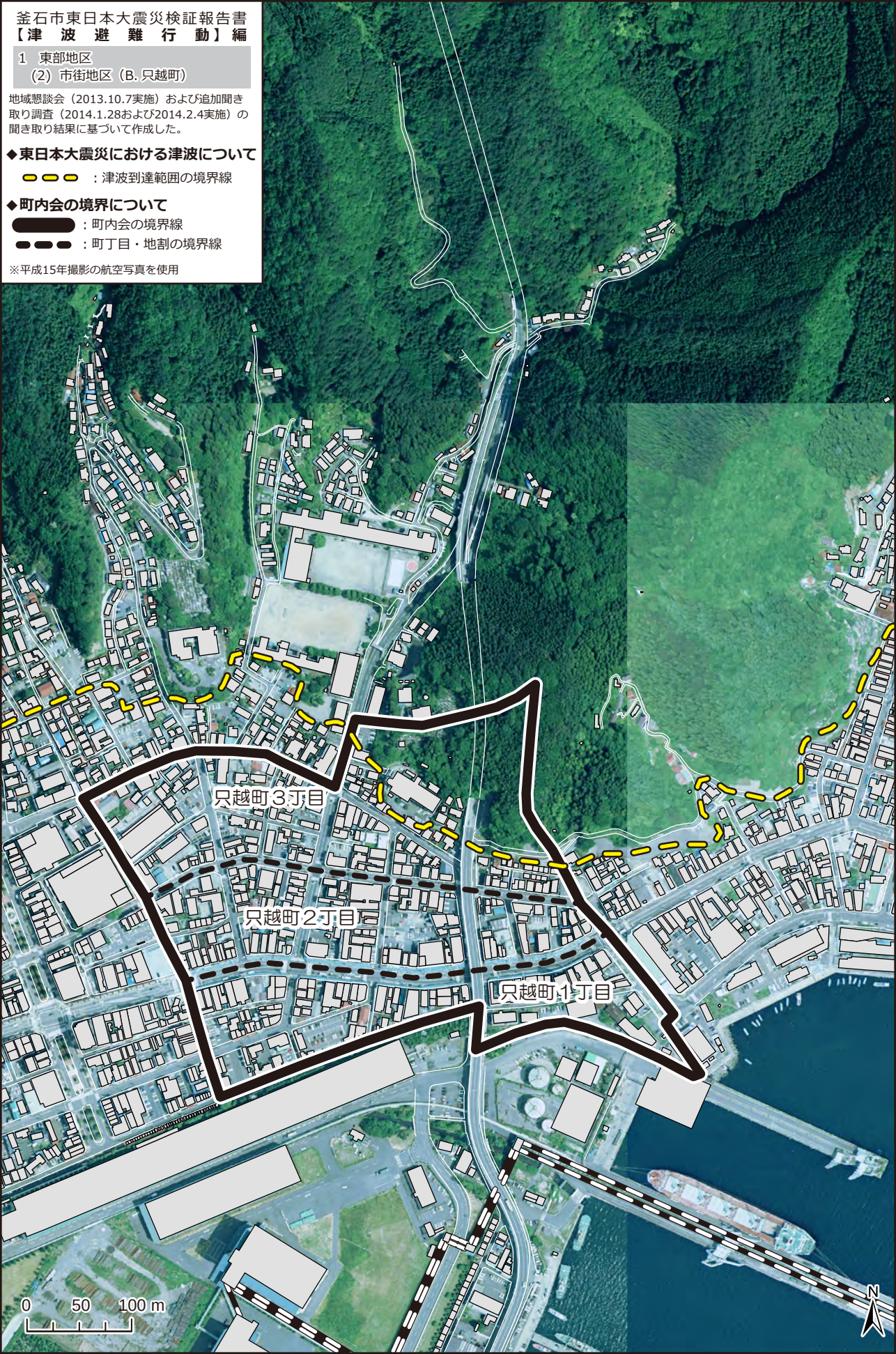
：津波到達範囲の境界線

◆町内会の境界について

：町内会の境界線

：町丁目・地割の境界線

※平成15年撮影の航空写真を使用



釜石市東日本大震災検証報告書
【津　波　避　難　行　動】編

1　東部地区
（2）市街地区（C. 天神町）

地域懇談会（2013.10.7実施）および追加聞き取り調査（2014.2.6実施）の聞き取り結果に基づいて作成した。

◆東日本大震災における津波について

：津波到達範囲の境界線

津波の流れや大きさ

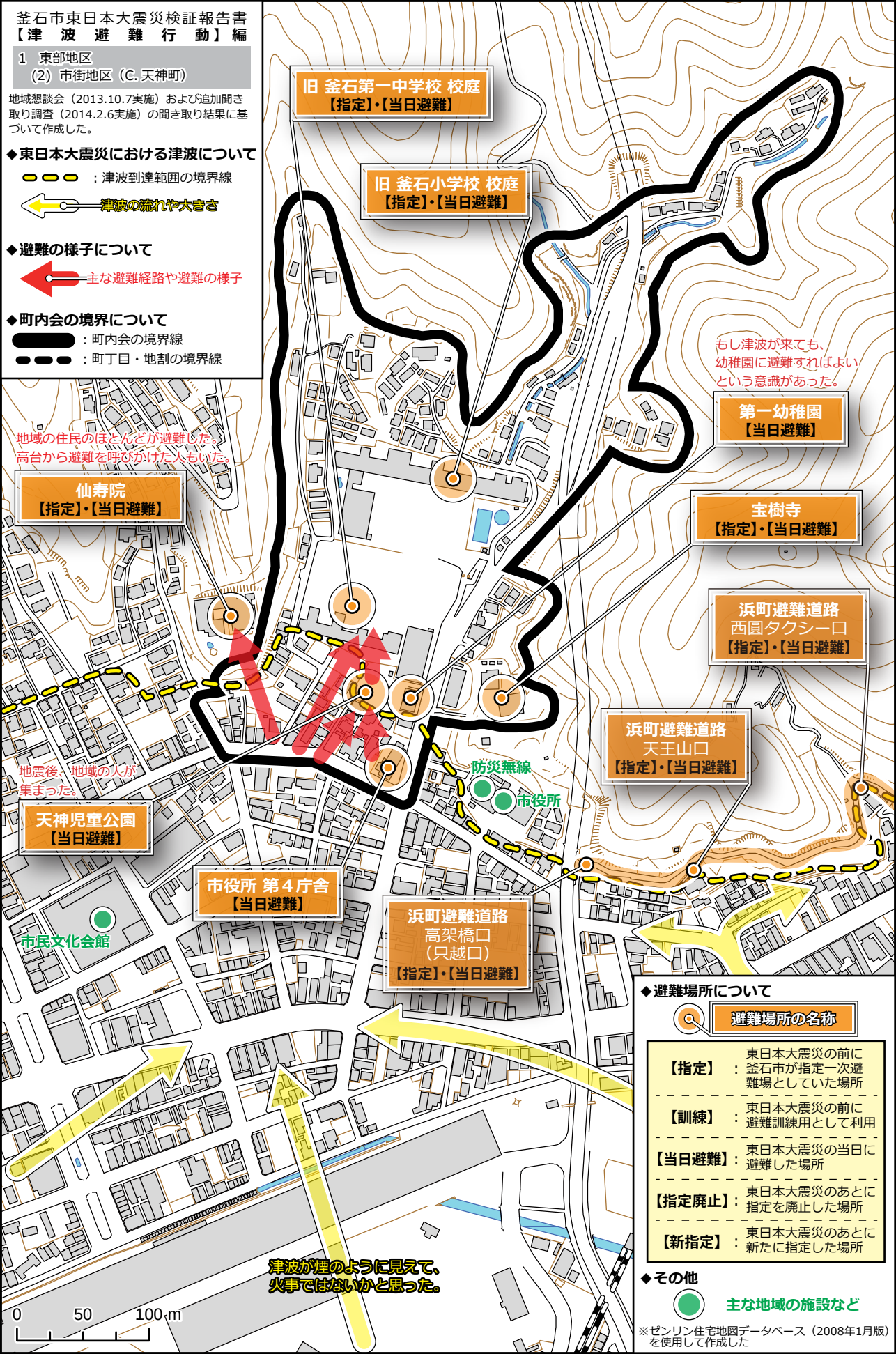
◆避難の様子について

主な避難経路や避難の様子

◆町内会の境界について

：町内会の境界線

：町丁目・地割の境界線



◆避難場所について

避難場所の名称

【指定】	東日本大震災の前に釜石市が指定一次避難場としていた場所
【訓練】	東日本大震災の前に避難訓練用として利用
【当日避難】	東日本大震災の当日に避難した場所
【指定廃止】	東日本大震災のあとに指定を廃止した場所
【新指定】	東日本大震災のあとに新たに指定した場所

◆その他

主な地域の施設など

※ゼンリン住宅地図データベース（2008年1月版）を使用して作成した

釜石市東日本大震災検証報告書
【津　波　避　難　行　動】編

1　東部地区
(2)　市街地区（C. 天神町）

地域懇談会（2013.10.7実施）および追加聞き取り調査（2014.2.6実施）の聞き取り結果に基づいて作成した。

◆東日本大震災における津波について

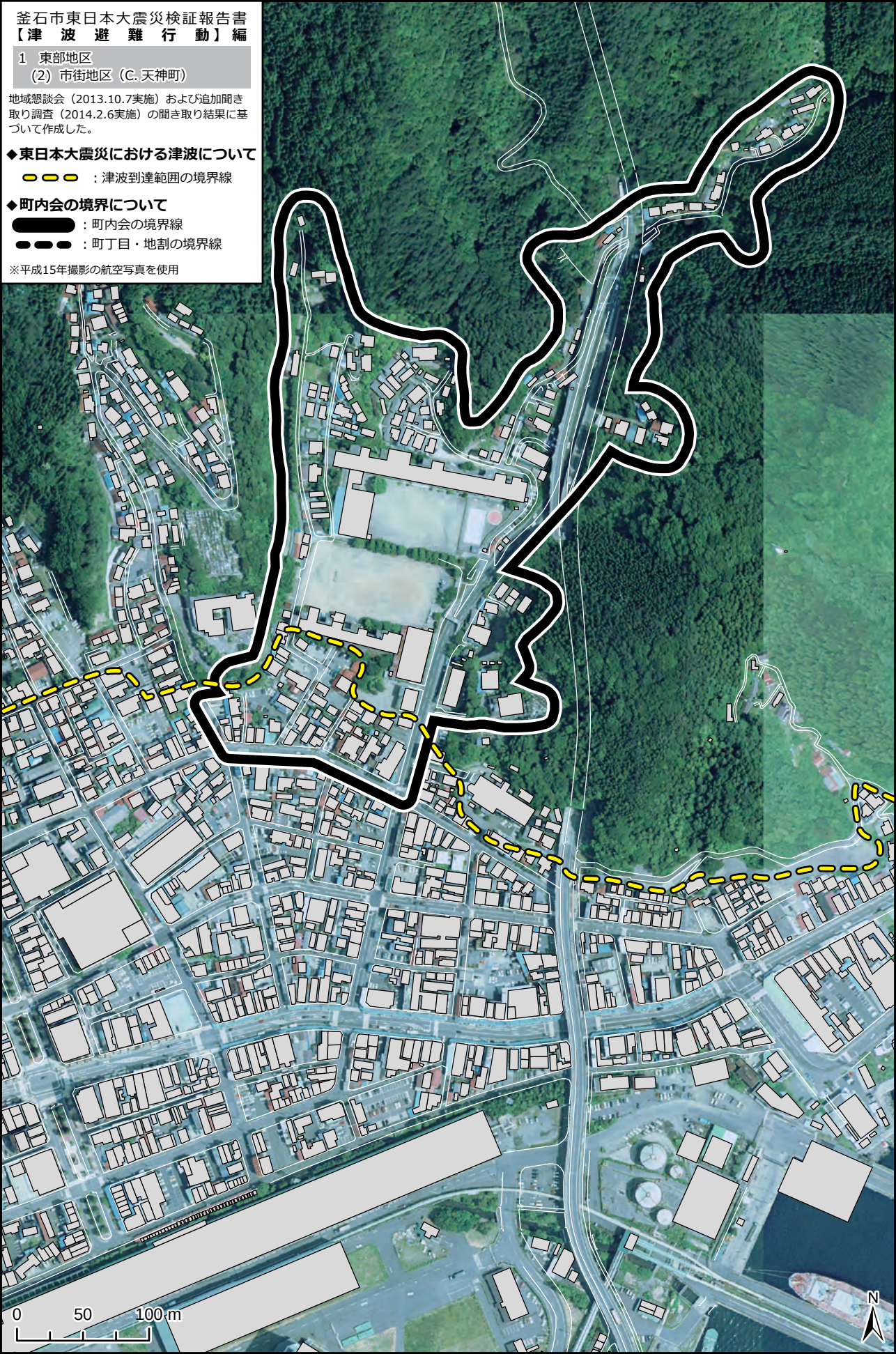
：津波到達範囲の境界線

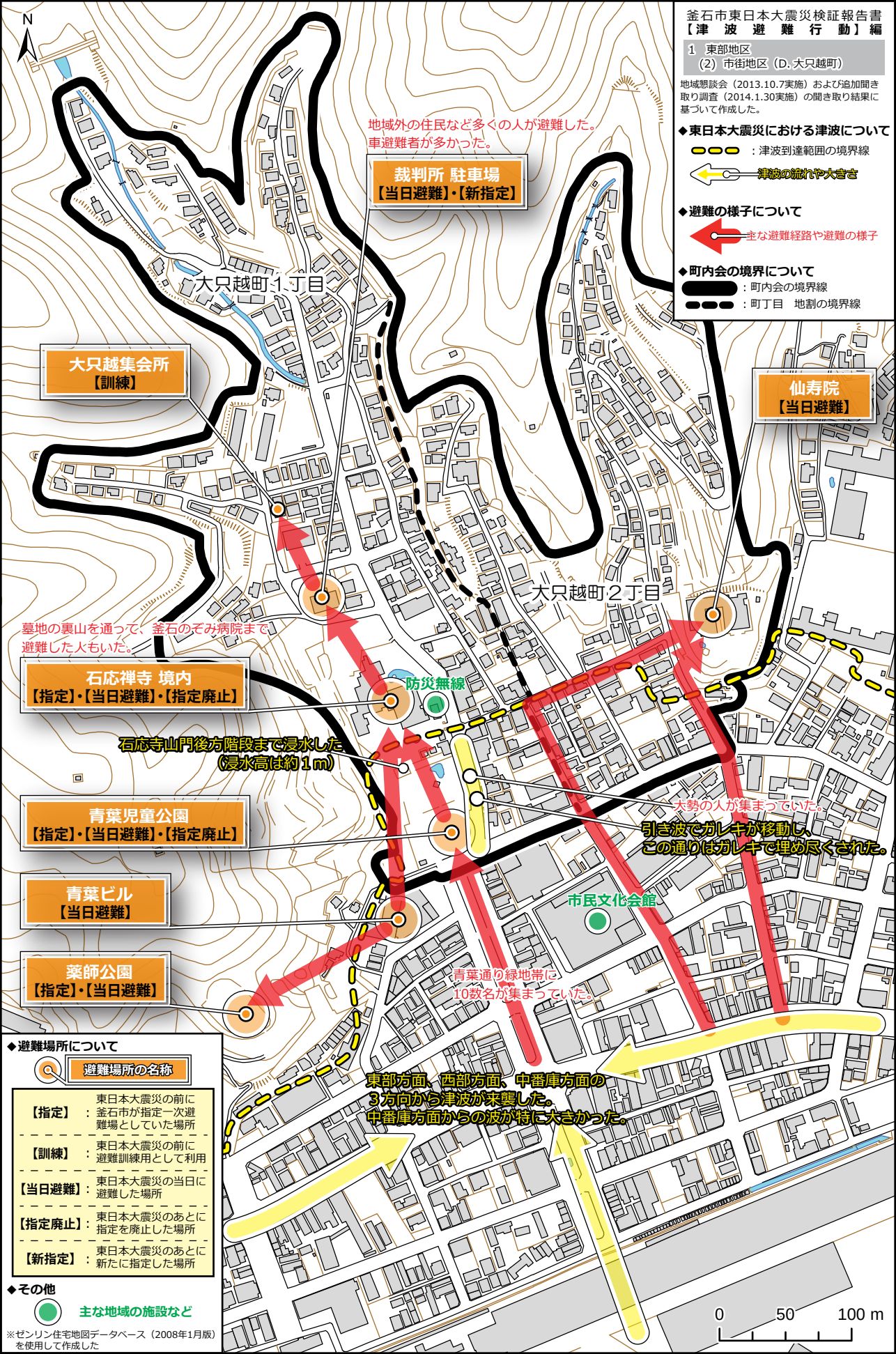
◆町内会の境界について

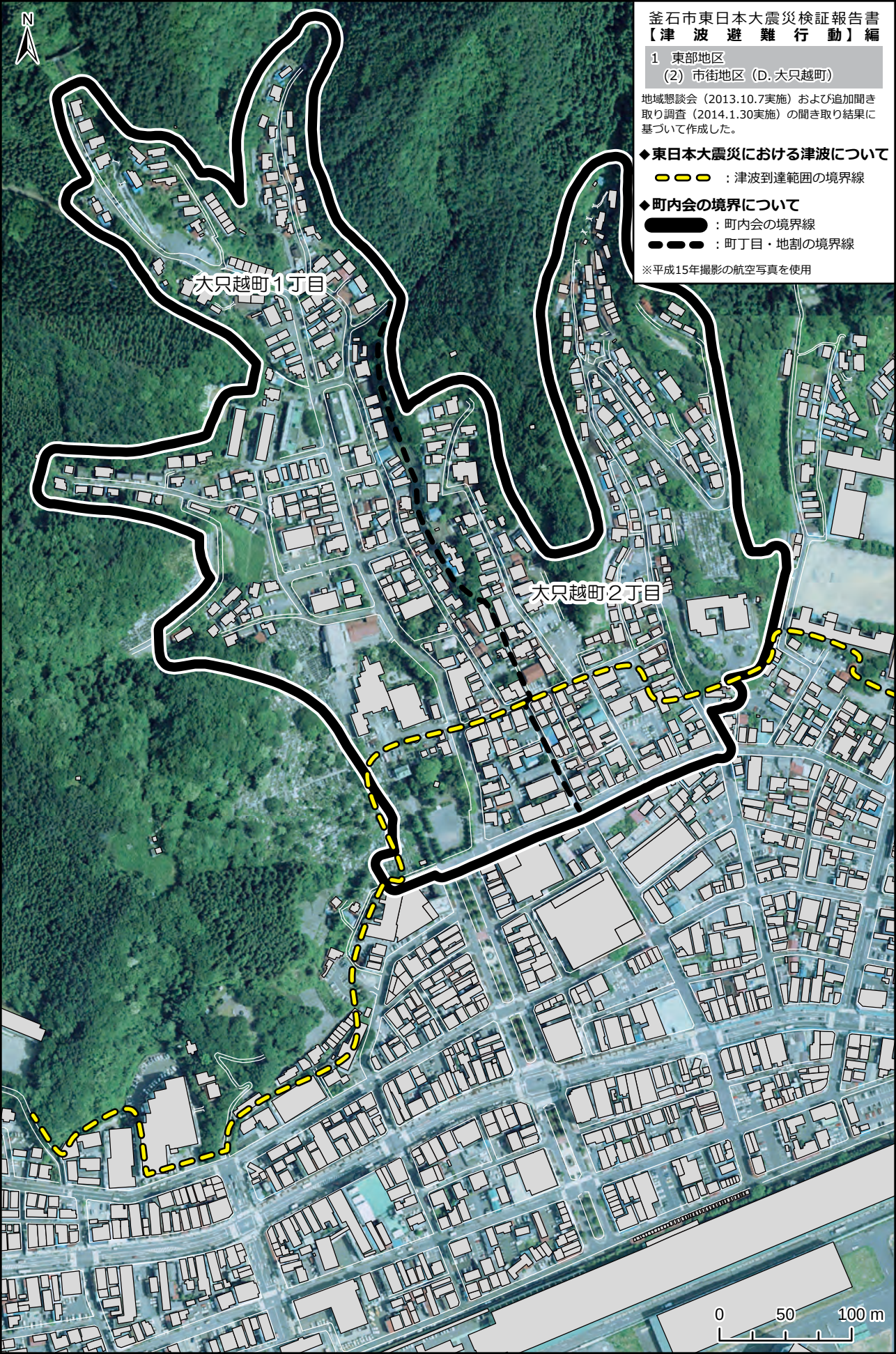
：町内会の境界線

：町丁目・地割の境界線

※平成15年撮影の航空写真を使用



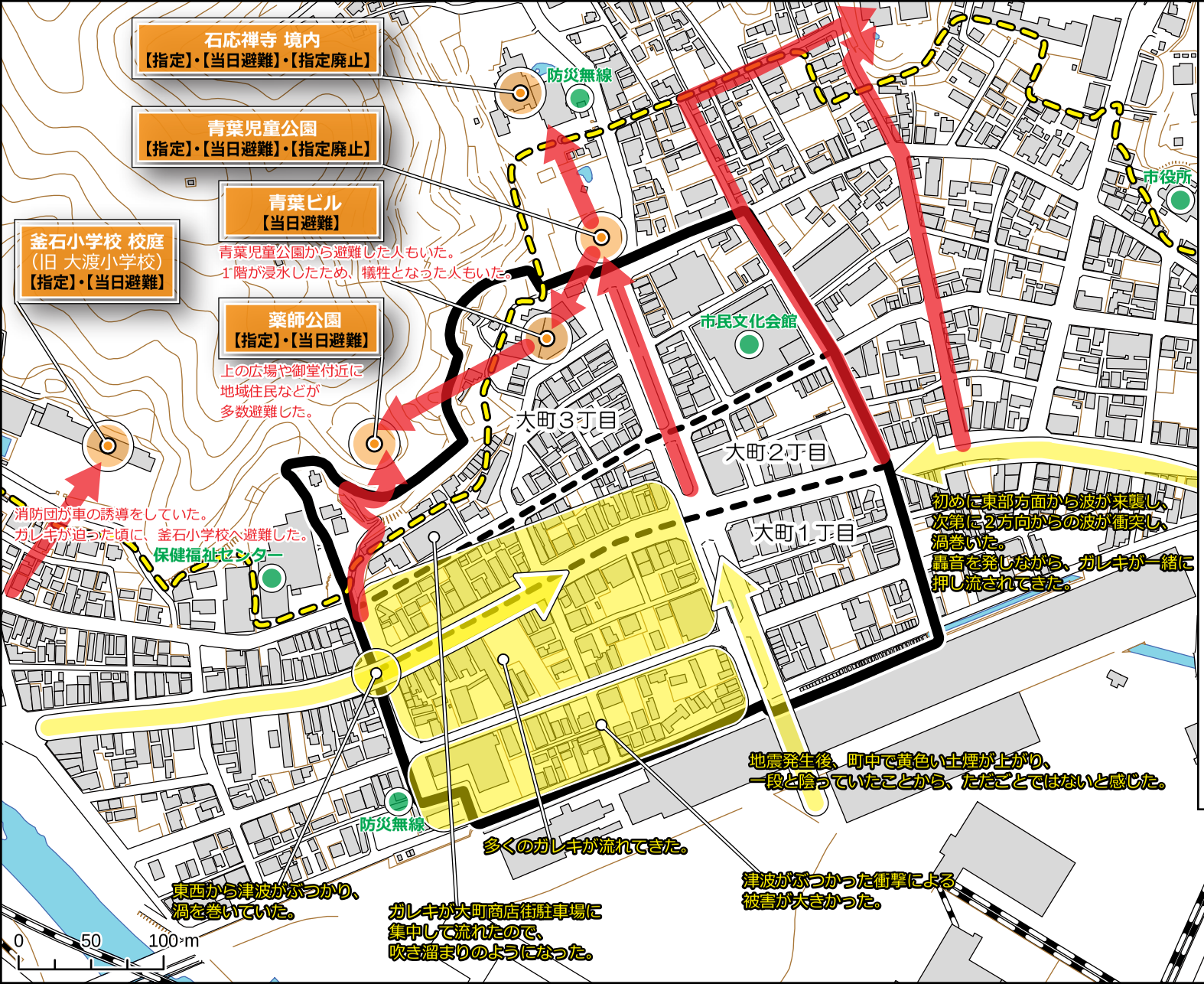

釜石市東日本大震災検証報告書
【津　波　避　難　行　動】編
1　東部地区
（2）市街地区（D. 大只越町）
地域懇談会（2013.10.7実施）および追加聞き取り調査（2014.1.30実施）の聞き取り結果に基づいて作成した。
◆東日本大震災における津波について
：津波到達範囲の境界線
津波の流れや大きさ
◆避難の様子について
主な避難経路や避難の様子
◆町内会の境界について
：町内会の境界線
：町丁目　地割の境界線
N
地域外の住民など多くの人が避難した。
車避難者が多かった。
裁判所 駐車場
【当日避難】・【新指定】
大只越町１丁目
大只越集会所
【訓練】
仙寿院
【当日避難】
大只越町２丁目
墓地の裏山を通って、釜石のぞみ病院まで
避難した人もいた。
石応禅寺 境内
【指定】・【当日避難】・【指定廃止】
防災無線
石応寺山門後方階段まで浸水した
（浸水高は約１ｍ）
大勢の人が集まっていた。
引き波でガレキが移動し、
この通りはガレキで埋め尽くされた。
青葉児童公園
【指定】・【当日避難】・【指定廃止】
青葉ビル
【当日避難】
市民文化会館
薬師公園
【指定】・【当日避難】
青葉通り緑地帯に
10数名が集まっていた。
東部方面、西部方面、中番庫方面の
３方向から津波が来襲した。
中番庫方面からの波が特に大きかった。
◆避難場所について
避難場所の名称
【指定】：東日本大震災の前に釜石市が指定一次避難場としていた場所
【訓練】：東日本大震災の前に避難訓練用として利用
【当日避難】：東日本大震災の当日に避難した場所
【指定廃止】：東日本大震災のあとに指定を廃止した場所
【新指定】：東日本大震災のあとに新たに指定した場所
◆その他
主な地域の施設など
※ゼンリン住宅地図データベース（2008年1月版）を使用して作成した
0
50
100 m


N
釜石市東日本大震災検証報告書
【津　波　避　難　行　動】編
1　東部地区
（2）市街地区（D. 大只越町）
地域懇談会（2013.10.7実施）および追加聞き取り調査（2014.1.30実施）の聞き取り結果に基づいて作成した。
◆東日本大震災における津波について
：津波到達範囲の境界線
◆町内会の境界について
：町内会の境界線
：町丁目・地割の境界線
※平成15年撮影の航空写真を使用
大只越町１丁目
大只越町２丁目
0
50
100 m

釜石市東日本大震災検証報告書
【津　波　避　難　行　動】編

1　東部地区
（2）市街地区（E. 大町）

地域懇談会（2013.10.7実施）および追加聞き取り調査（2014.2.1実施）の聞き取り結果に基づいて作成した。



◆東日本大震災における津波について

：津波到達範囲の境界線

津波の流れや大きさ

◆避難場所について

避難場所の名称

【指定】	：	東日本大震災の前に釜石市が指定一次避難場としていた場所
【訓練】	：	東日本大震災の前に避難訓練用として利用
【当日避難】	：	東日本大震災の当日に避難した場所
【指定廃止】	：	東日本大震災のあとに指定を廃止した場所
【新指定】	：	東日本大震災のあとに新たに指定した場所

◆避難の様子について

主な避難経路や避難の様子

◆町内会の境界について

：町内会の境界線

：町丁目・地割の境界線

◆その他

主な地域の施設など

※ゼンリン住宅地図データベース（2008年1月版）を使用して作成した

釜石市東日本大震災検証報告書
【津　波　避　難　行　動】編

1　東部地区
（2）市街地区（E. 大町）

地域懇談会（2013.10.7実施）および追加聞き取り調査（2014.2.1実施）の聞き取り結果に基づいて作成した。

◆東日本大震災における津波について

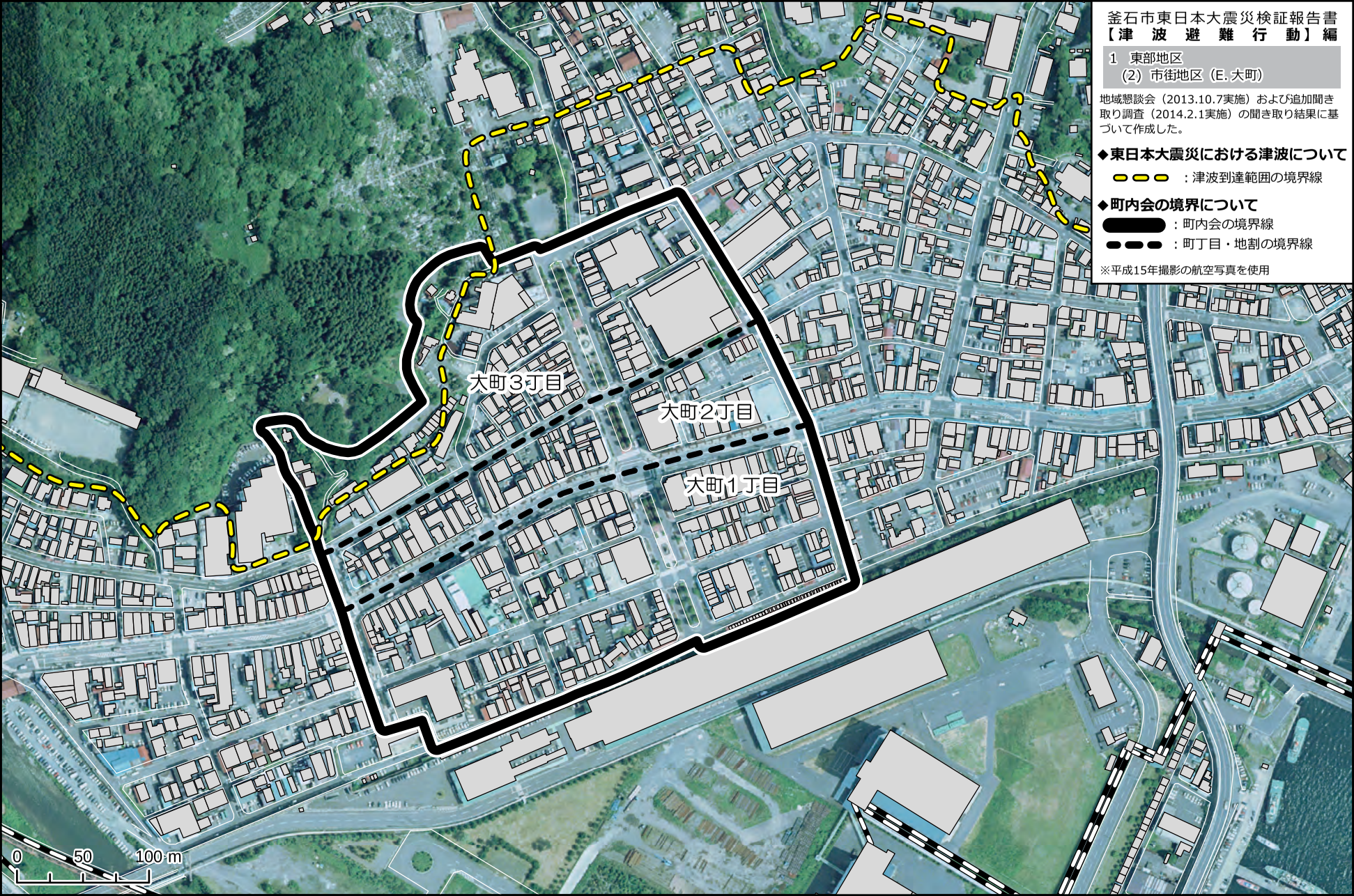
：津波到達範囲の境界線

◆町内会の境界について

：町内会の境界線

：町丁目・地割の境界線

※平成15年撮影の航空写真を使用



釜石市東日本大震災検証報告書
【津　波　避　難　行　動】編

1　東部地区
（2）市街地区（F. 大渡町）

地域懇談会（2013.10.7実施）および追加聞き取り調査（2014.1.31実施）の聞き取り結果に基づいて作成した。

◆東日本大震災における津波について

：津波到達範囲の境界線

津波の流れや大きさ

◆避難の様子について

主な避難経路や避難の様子

◆町内会の境界について

：町内会の境界線

：町丁目・地割の境界線

◆避難場所について

避難場所の名称

【指定】	：東日本大震災の前に釜石市が指定一次避難場としていた場所
【訓練】	：東日本大震災の前に避難訓練用として利用
【当日避難】	：東日本大震災の当日に避難した場所
【指定廃止】	：東日本大震災のあとに指定を廃止した場所
【新指定】	：東日本大震災のあとに新たに指定した場所

◆その他

主な地域の施設など

※ゼンリン住宅地図データベース（2008年1月版）を使用して作成した

大渡町３丁目

釜石小学校 校庭
（旧 大渡小学校）
【指定】・【当日避難】

地区外の避難者も含めて、100名以上が避難した。
数十台、避難した車もあった。

薬師公園
【指定】・【当日避難】

薬師公園へ避難した後、
山道を通って釜石小学校まで
避難した人もいた。

八幡宮

保健福祉センター

屋根に上って
助かった人もいた。

大渡町２丁目

中番庫方面や市役所方面などから
来た波が、松原方面から来た波に
衝突して、渦を巻いた。

釜石消防署

防災無線

釜石保育園

大渡町１丁目

津波来襲前、道路は混雑し、
避難者が道路を横断するのに苦慮した。

道路沿いの商店関係者
数名が犠牲となった。

地鳴りのような激しい音が
聞こえていた。

0　50　100 m

N

釜石市東日本大震災検証報告書
【津　波　避　難　行　動】編

1　東部地区
（2）市街地区（F. 大渡町）

地域懇談会（2013.10.7実施）および追加聞き取り調査（2014.1.31実施）の聞き取り結果に基づいて作成した。

◆東日本大震災における津波について

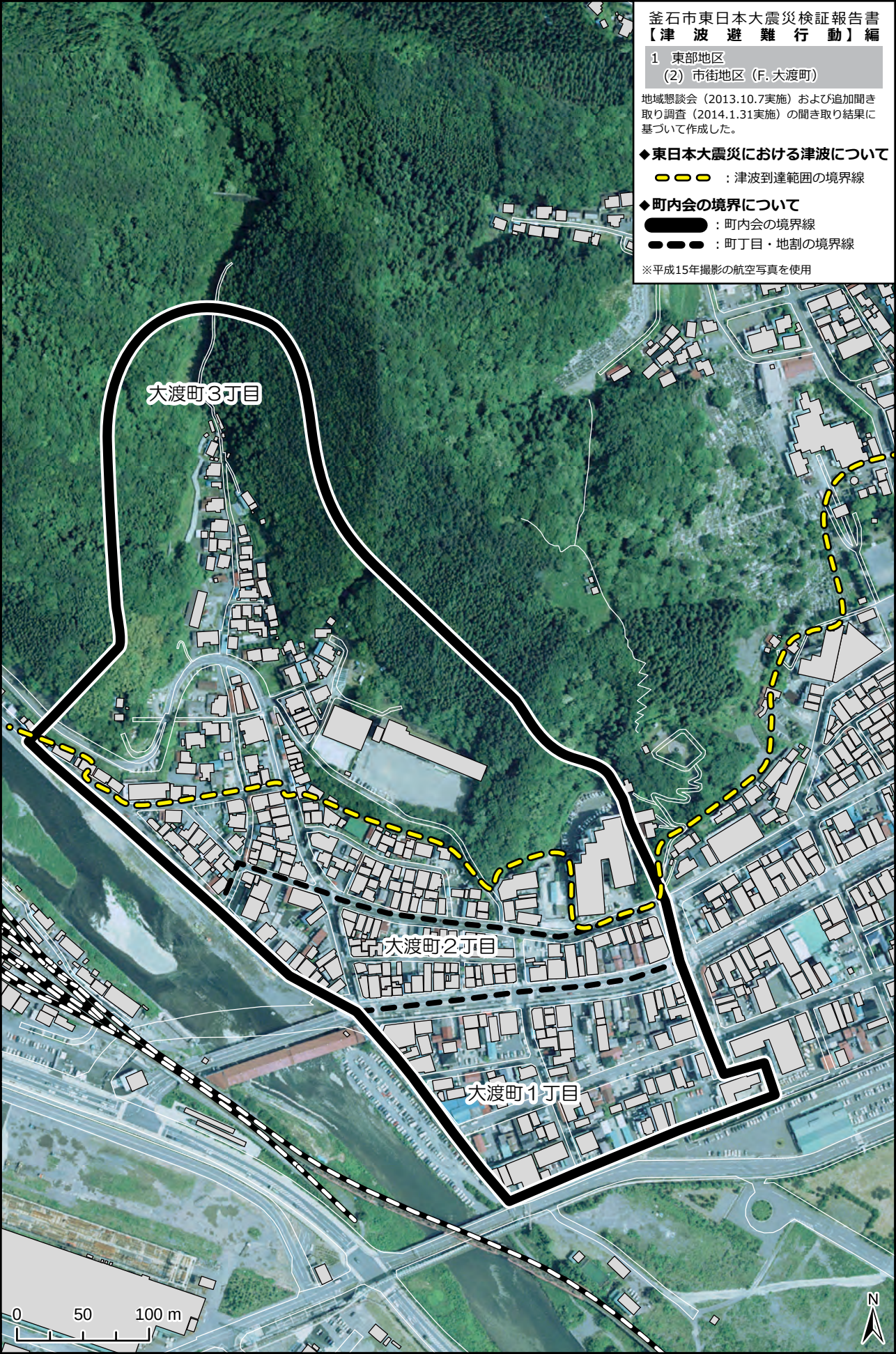
：津波到達範囲の境界線

◆町内会の境界について

：町内会の境界線

：町丁目・地割の境界線

※平成15年撮影の航空写真を使用



釜石市東日本大震災検証報告書
【津　波　避　難　行　動】編

1　東部地区
（2）市街地区（G. 鈴子町）

地域懇談会（2013.10.7実施）および追加聞き取り調査（2014.2.1実施）の聞き取り結果に基づいて作成した。

◆東日本大震災における津波について

：津波到達範囲の境界線

津波の流れや大きさ

◆避難場所について

避難場所の名称

【指定】	東日本大震災の前に釜石市が指定一次避難場としていた場所
【訓練】	東日本大震災の前に避難訓練用として利用
【当日避難】	東日本大震災の当日に避難した場所
【指定廃止】	東日本大震災のあとに指定を廃止した場所
【新指定】	東日本大震災のあとに新たに指定した場所

◆避難の様子について

主な避難経路や避難の様子

◆町内会の境界について

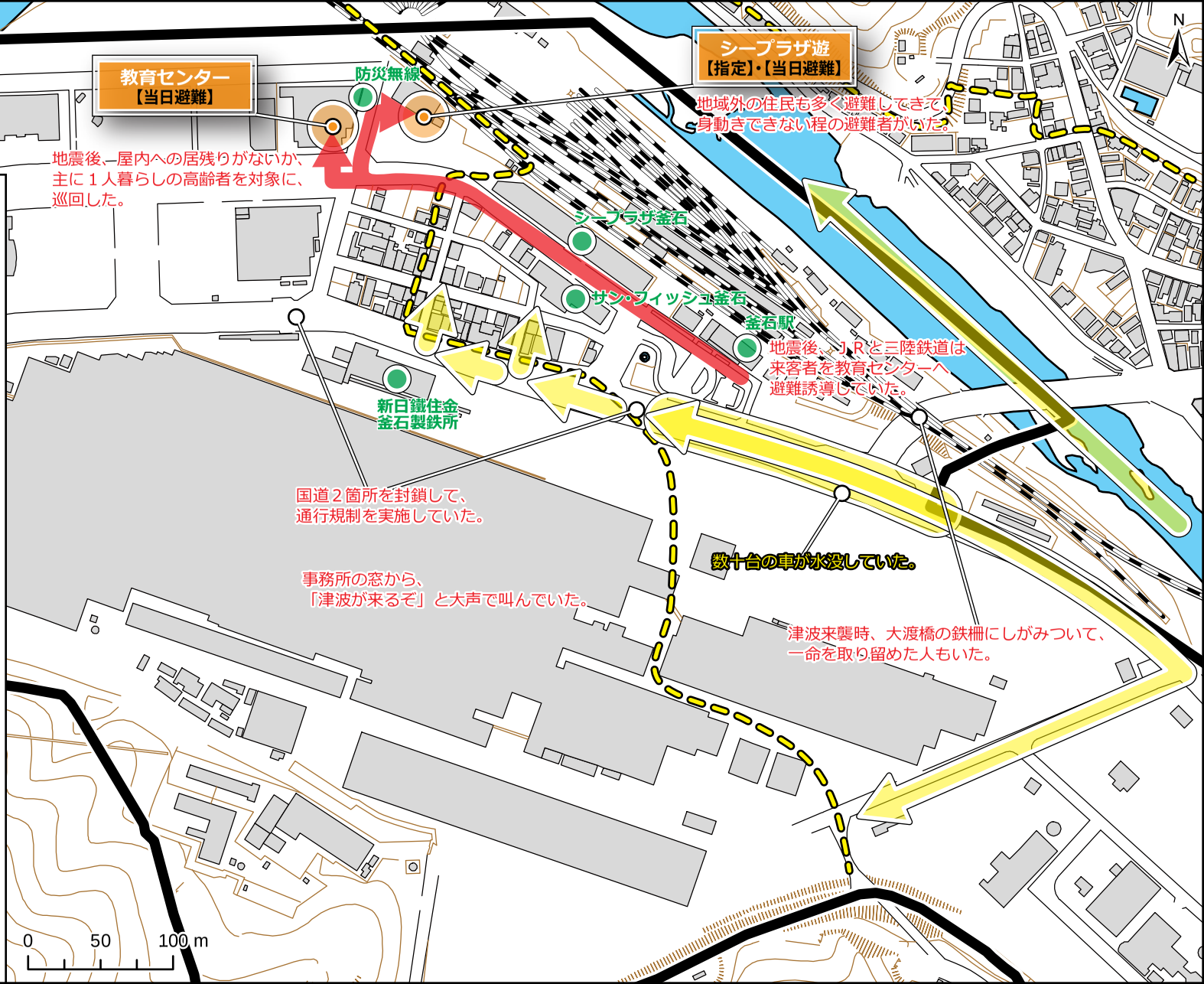
：町内会の境界線

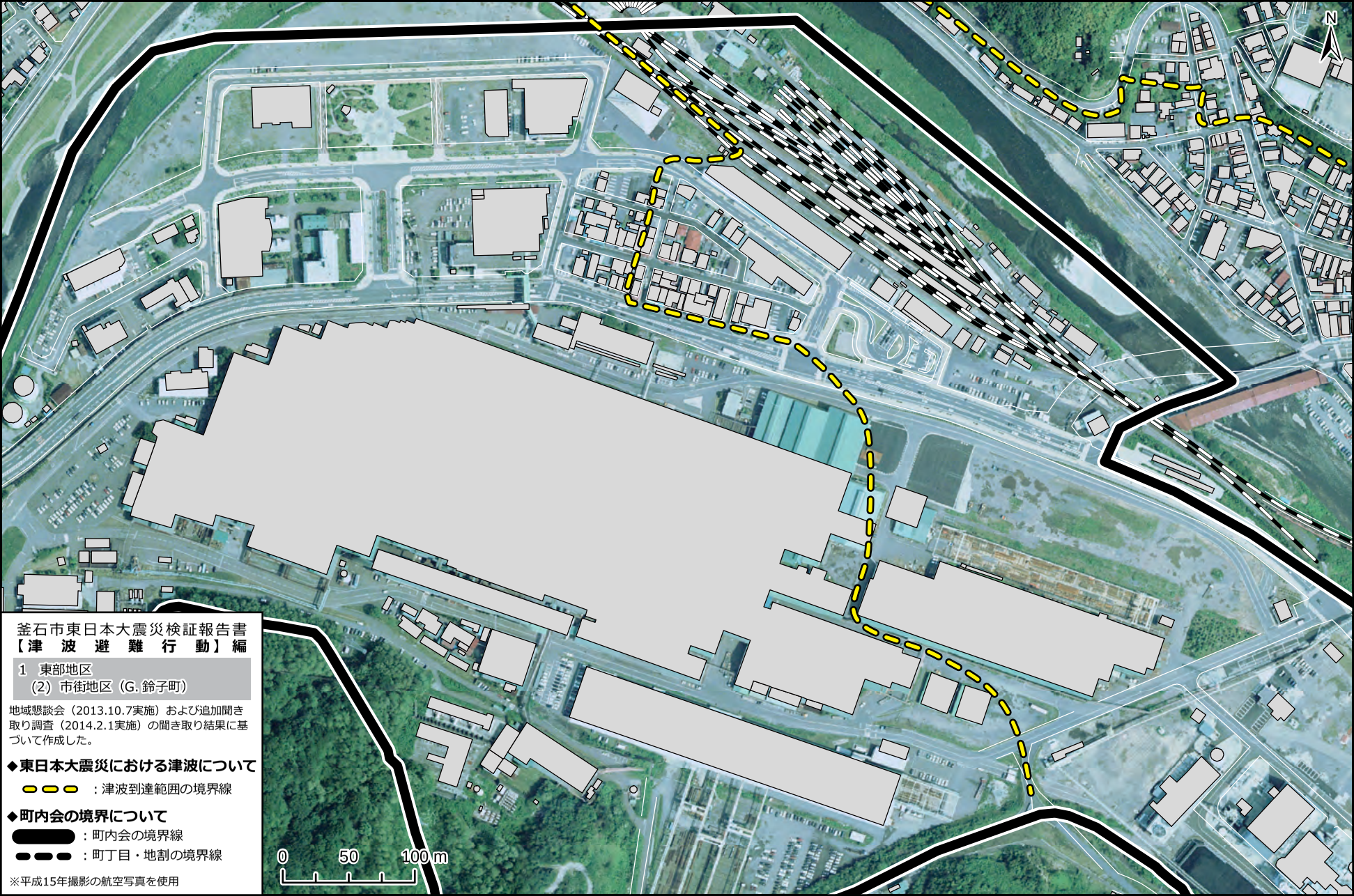
：町丁目・地割の境界線

◆その他

主な地域の施設など

※ゼンリン住宅地図データベース（2008年1月版）を使用して作成した





釜石市東日本大震災検証報告書
【津　波　避　難　行　動】編

1　東部地区
(2)　市街地区（G. 鈴子町）

地域懇談会（2013.10.7実施）および追加聞き取り調査（2014.2.1実施）の聞き取り結果に基づいて作成した。

◆東日本大震災における津波について

：津波到達範囲の境界線

◆町内会の境界について

：町内会の境界線

：町丁目・地割の境界線

※平成15年撮影の航空写真を使用

釜石市東日本大震災検証報告書
【津　波　避　難　行　動】編

1　東部地区
（2）市街地区（H. 駒木町）

地域懇談会（2013.10.7実施）および追加聞き取り調査（2014.2.10実施）の聞き取り結果に基づいて作成した。

◆東日本大震災における津波について

：津波到達範囲の境界線

津波の流れや大きさ

◆避難場所について

避難場所の名称

【指定】	東日本大震災の前に釜石市が指定一次避難場としていた場所
【訓練】	東日本大震災の前に避難訓練用として利用
【当日避難】	東日本大震災の当日に避難した場所
【指定廃止】	東日本大震災のあとに指定を廃止した場所
【新指定】	東日本大震災のあとに新たに指定した場所

◆避難の様子について

主な避難経路や避難の様子

◆町内会の境界について

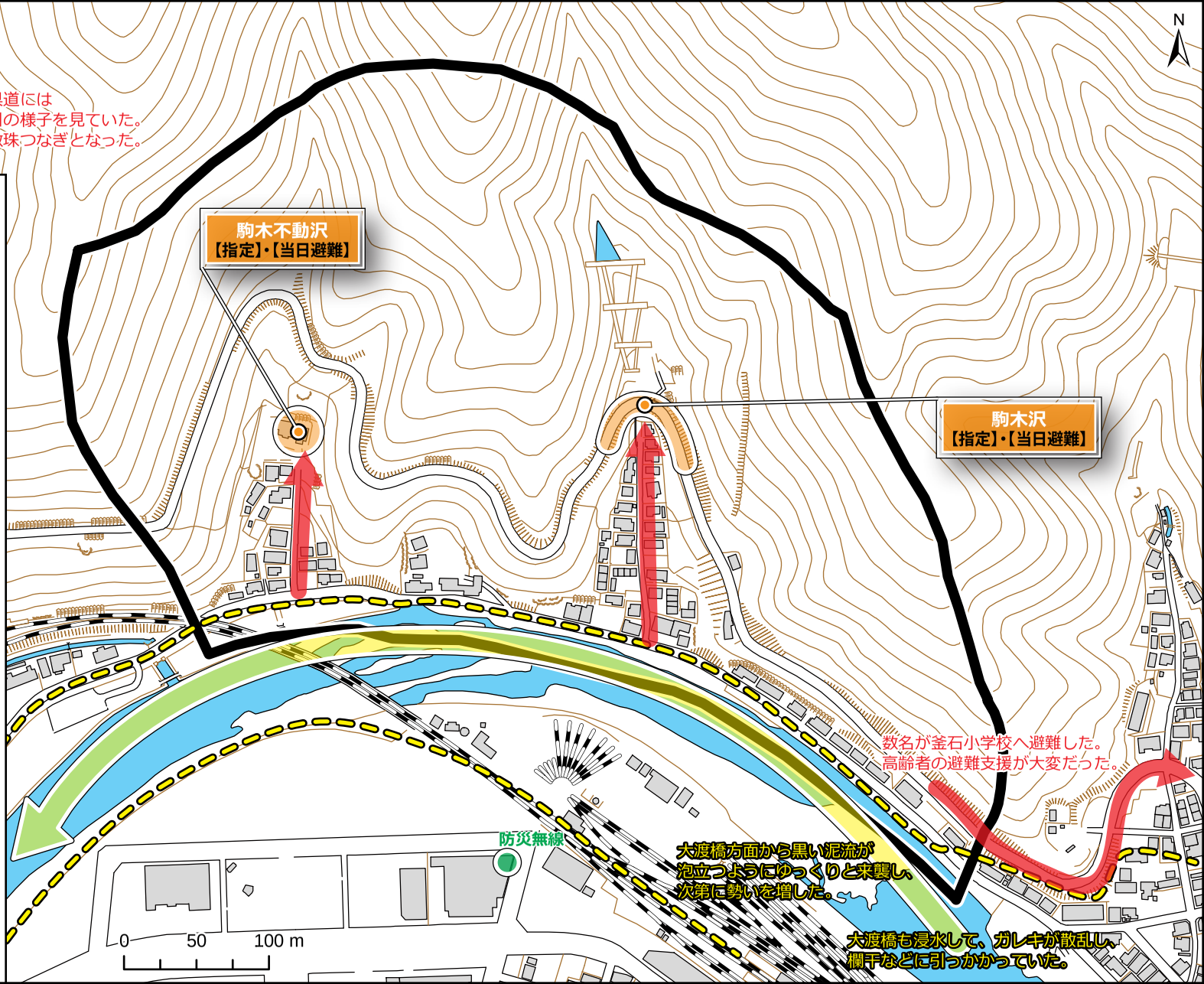
：町内会の境界線

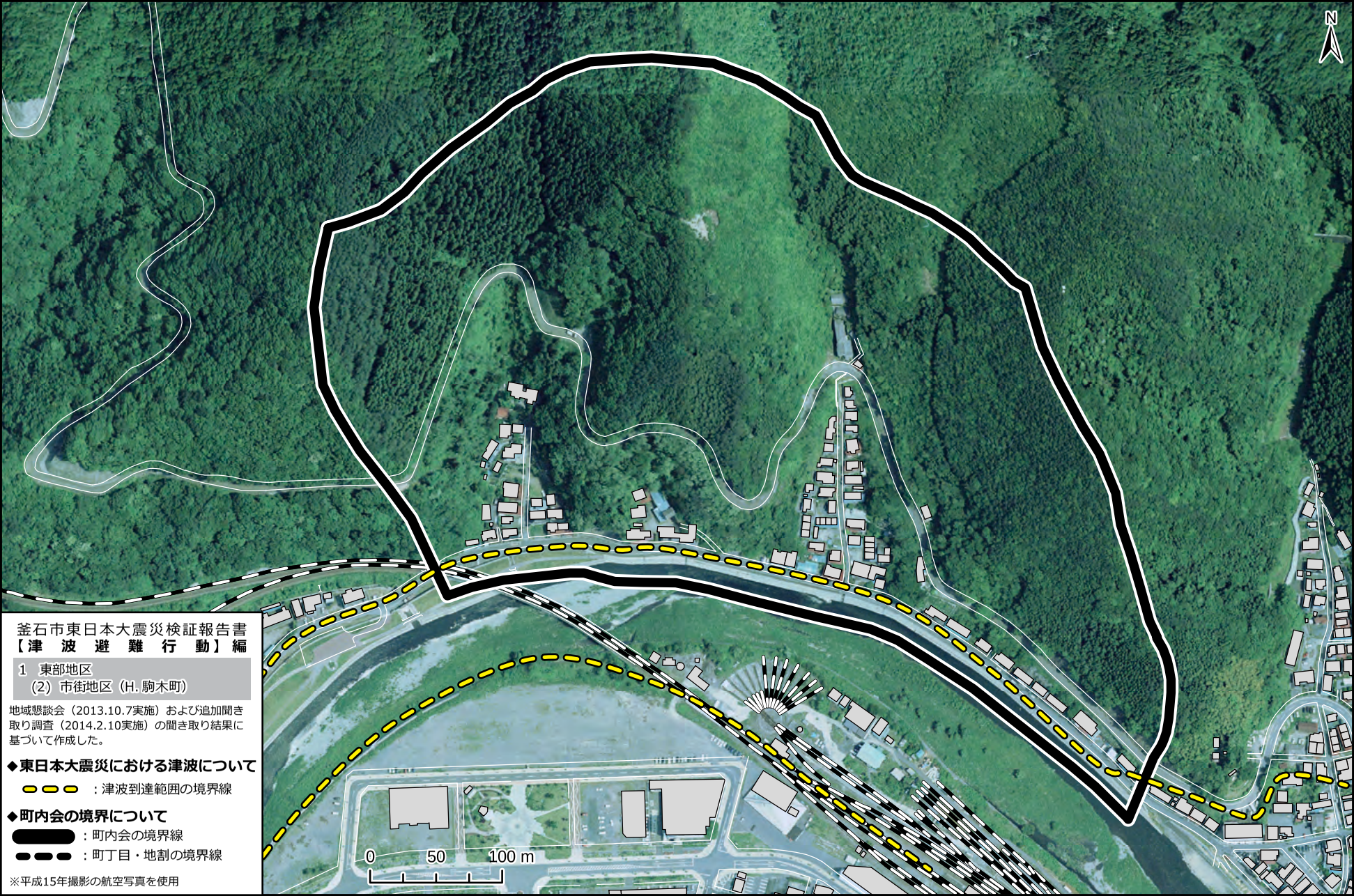
：町丁目・地割の境界線

◆その他

主な地域の施設など

※ゼンリン住宅地図データベース（2008年1月版）を使用して作成した





釜石市東日本大震災検証報告書
【津　波　避　難　行　動】編

1　東部地区
(2)　市街地区（H. 駒木町）

地域懇談会（2013.10.7実施）および追加聞き取り調査（2014.2.10実施）の聞き取り結果に基づいて作成した。

◆東日本大震災における津波について

：津波到達範囲の境界線

◆町内会の境界について

：町内会の境界線

：町丁目・地割の境界線

※平成15年撮影の航空写真を使用

3．地域の避難実態（とりまとめ結果）

3.1　東部地区　　(3) 嬉石・松原・大平地区

1) 地域の被災状況

地域名	震災前の人口・世帯数（平成23年2月現在）		大震災の被害			避難訓練参加者数・参加率（平成23年3月3日実施）	
			犠牲者数（平成25年1月22日）	全壊・半壊家屋数（平成25年6月現在）			
嬉石町	856人	402世帯	45人	全壊137件	半壊7件	114人	13%（対象地区：嬉石町）
松原町	454人	230世帯	22人	全壊102件	半壊35件	103人	18%（対象地区：松原町・港町／合算人口583）
大平町	822人	379世帯	4人	全壊4件	半壊20件	0人	0%（対象地区：大平町3丁目）

2) 震災当日の津波避難行動実態

［A.嬉石町］

- 地震発生後、一部の住民は、自宅前の道路に出て周りの様子をうかがっていた。東日本大震災の２日前にも地震があったが大きな被害もなく、住民の緊迫感は余り感じられなかった。そのため、11日の地震後、急いで避難する様子も見られなかった。
- 市民交流センターなど指定避難所に直接避難した方のほか、町内で取り決めていた一時避難場所に集まった後、指定避難場所に移動する方もいた。
- 高台にある親類又は友人宅に避難する方もいた。
- 一部には地震後、海岸に下がって海の様子を見ていた住民もいた。
- アパートの高層階に要援護者等を支援しながら駆け上がり、助かった方がいた。
- その一方で、車で避難しようとした方が国道の渋滞に巻きこまれてしまった。
- 自宅に留まり、避難せずに流された方、地震後、地域外の職場から車で帰宅中、渋滞に巻きこまれ流された方、一度避難したものの、貴重品等を取りに自宅に戻り流された方、第１波と第２波との間に戻り、流された方等がいた。

［B.松原町］

- 地震後、町内の各所では、近隣の方が寄り集まり、周囲の様子を見ていた。海岸付近に住む３丁目の住民は、比較的早く町内の高台に徒歩・車で避難を始めた。
- 地震後、松原公園より高台に住む一部の住民は、周辺の片付けをした後、周りの様子を見るため、避難所である松原消防コミュニティセンターまで下がってきた。
- 「津波なんて来るわけない」と思っていたが、周辺の住民が避難するのを見て、避難することができた方が少なくなかった。
- 揺れの大きさから津波の襲来を予期し、すぐに避難を開始したが、中妻方面へ車で避難するという危険な避難行動をしてしまった住民もいた。
- 避難者輸送のためか、頻繁に町内を車で行き来している住民もいた。
- 国道方向から、高台に向かう町内の道路は、避難した車で一杯になった。

［C.大平町］

- 多くの住民は高台の地域に居住しているため、避難しなかった。
- 一部の住民は、海の様子が見える場所に集まった。

・鉄工団地地区の事業所では迅速な避難行動が見られた。津波経験がない多くの外国人従業員は、車で高台に避難していた。

3) 震災以前の備え

［A.嬉石町］

・震災の年の４月から、自主防災組織の設立を予定して、準備をしていた。
・市指定避難場所のほか、町内会単独で、住家周辺の高台３箇所（公園、嬉石地区集会所、コミュニティ住宅５号棟前）を一時避難場所としていた。３月３日の避難訓練時にも、この避難場所に集合していた。町内会報を通じて参加の呼び掛けをしていたが、参加者は固定する傾向にあった。
・警察、消防、医療関係者、町内会等のほか、市が協力して、トリアージなどの防災訓練を過去に実施したことが、今回の被災時において役に立った。
・東日本大震災の数年前、地域内で台風、土砂崩れなどがあり、人的被害もあったことから、住民の防災に関する意識が高まっていた。

［B.松原町］

・過去、町内で土砂崩れがあったことから、住民の防災意識は高かった。
・消防団も参加した自主防災組織を設置し、救護班、情報伝達、交通誘導等の役割を決めていた。
・３月３日の避難訓練では、指定避難所の松原公園、松原神社の階段付近に集まっていた。
・避難訓練や防災学習は毎年実施しており、担架やリアカーを使った避難訓練も行っていた。

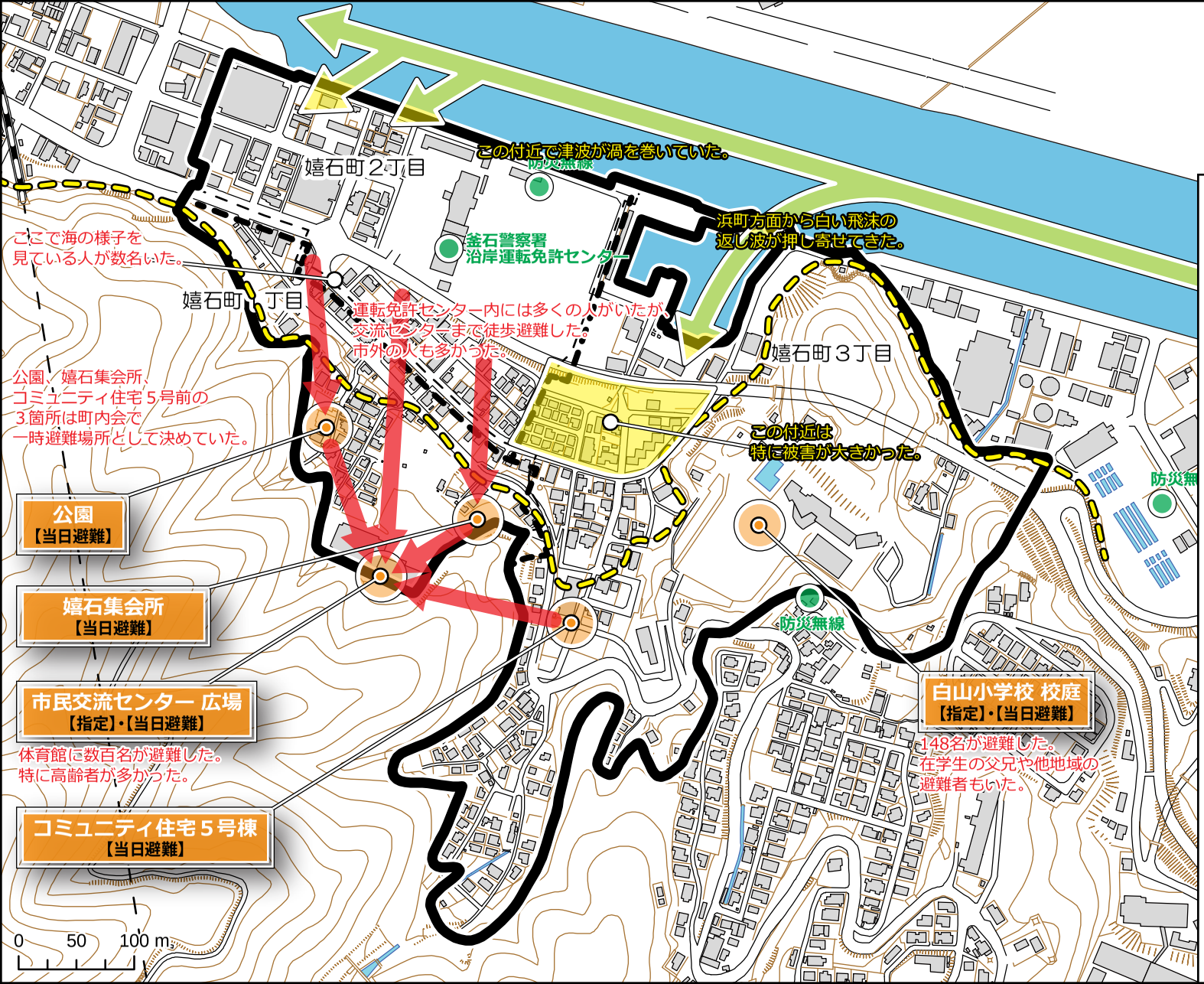
［C.大平町］

・平成 16 年７月に自主防災組織を設置した。火災防火等の取り組みを主体としており、特に津波避難についての取り組みはなかった。
・高台の地域のため、３月３日の避難訓練には参加していなかった。

4) 問題点・課題の整理

［A.嬉石町］［B.松原町］

・「ここまで津波は来ない」と思い込み、避難が遅れてしまった方が少なくなかったため、想定にとらわれず、地震が来たらすぐに避難することを徹底する。
・災害時要援護者等、遠くまで避難することができない方はアパートの高層階へ避難するなどの対応を検討しておく。
・自動車避難は、交通の多い国道に面した地域であるため、自動車による津波避難に関して地域で十分に検討し、「原則禁止」を徹底しておく。



釜石市東日本大震災検証報告書
【津　波　避　難　行　動】編

1　東部地区
(3)　嬉石・松原・大平地区（A. 嬉石町）

地域懇談会（2013.9.25実施）および追加聞き取り調査（2014.2.2実施）の聞き取り結果に基づいて作成した。

◆東日本大震災における津波について

：津波到達範囲の境界線

津波の流れや大きさ

◆避難場所について

避難場所の名称

【指定】	：	東日本大震災の前に釜石市が指定一次避難場としていた場所
【訓練】	：	東日本大震災の前に避難訓練用として利用
【当日避難】	：	東日本大震災の当日に避難した場所
【指定廃止】	：	東日本大震災のあとに指定を廃止した場所
【新指定】	：	東日本大震災のあとに新たに指定した場所

◆避難の様子について

主な避難経路や避難の様子

◆町内会の境界について

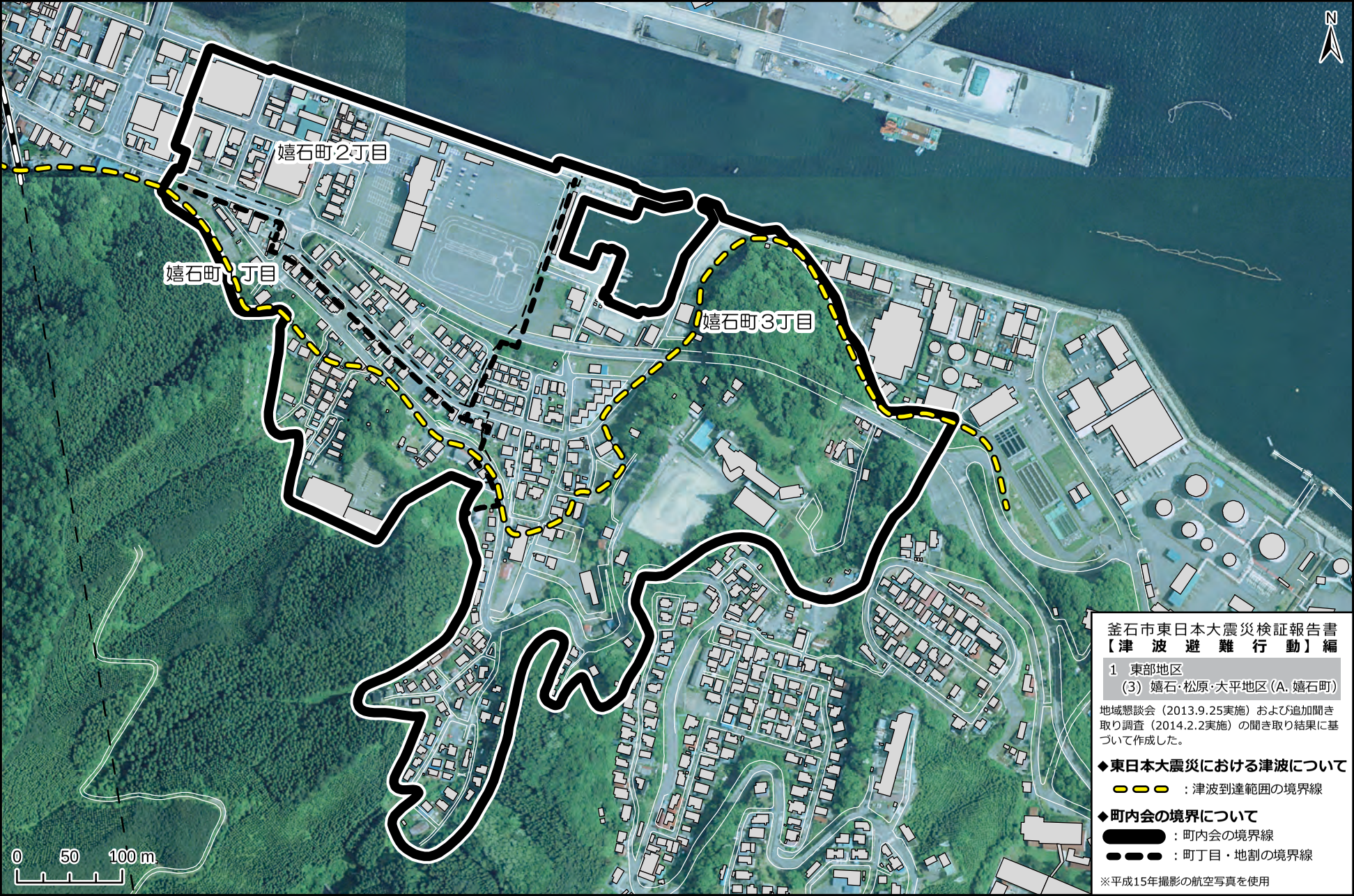
：町内会の境界線

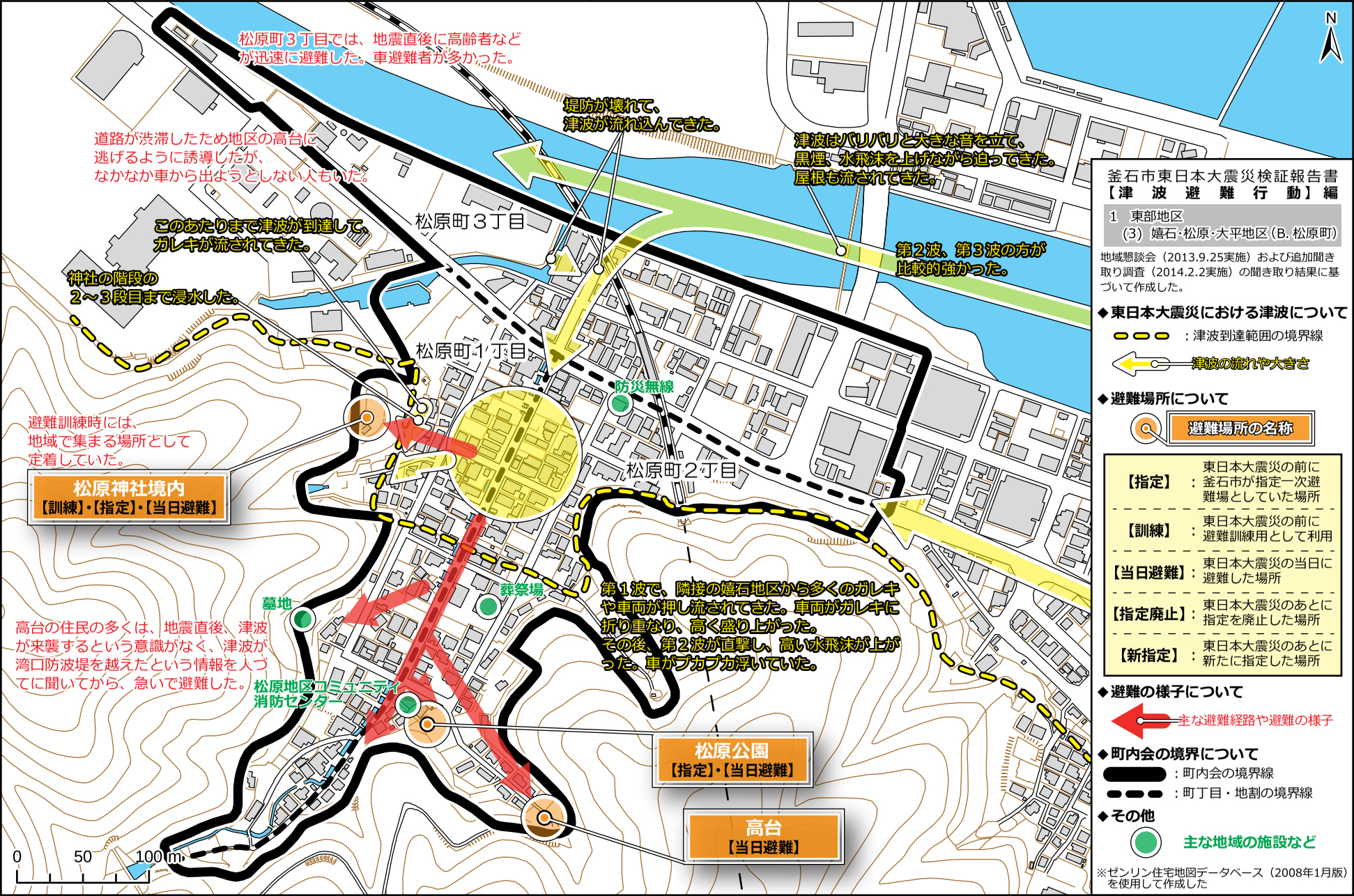
：町丁目・地割の境界線

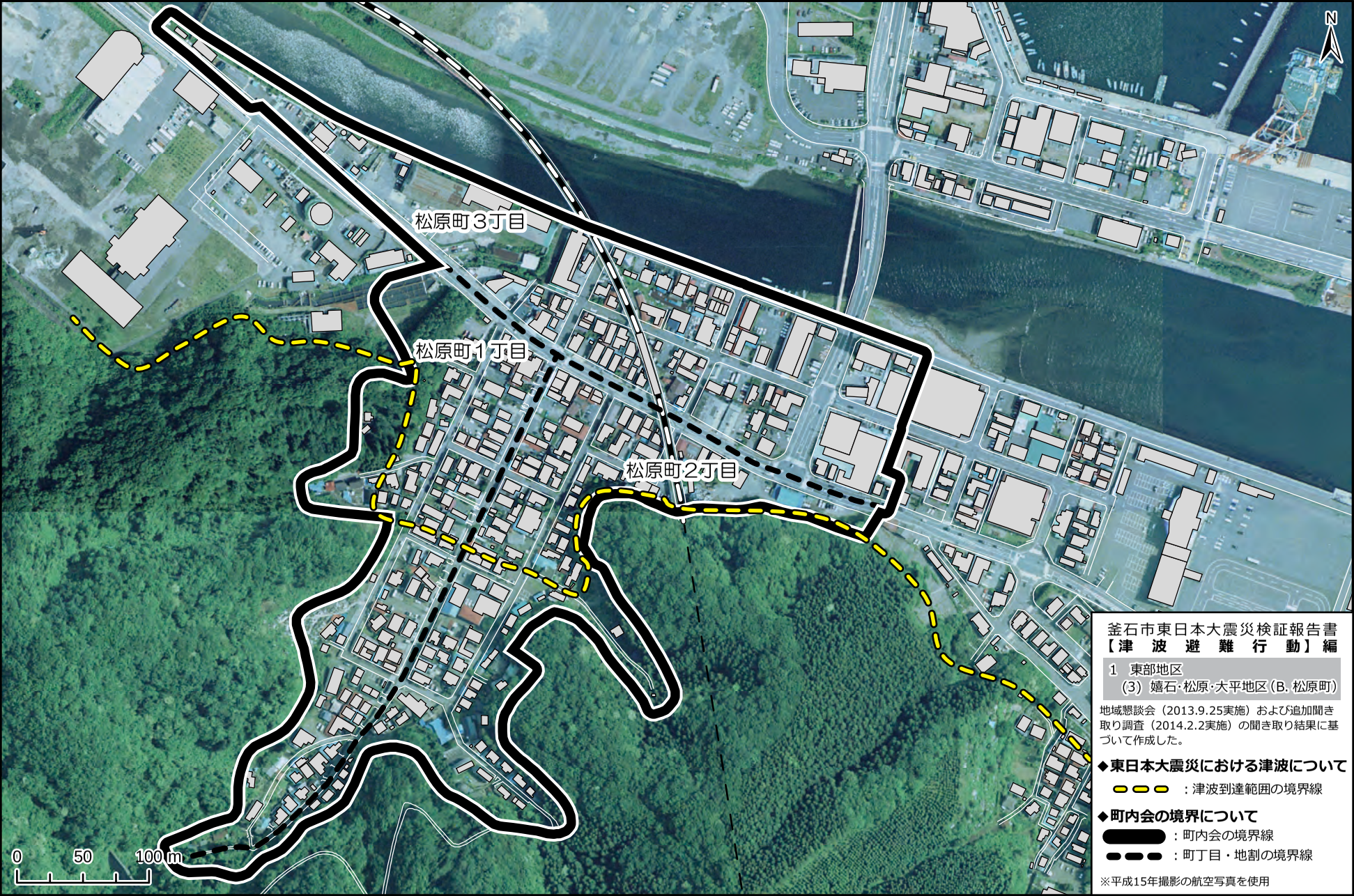
◆その他

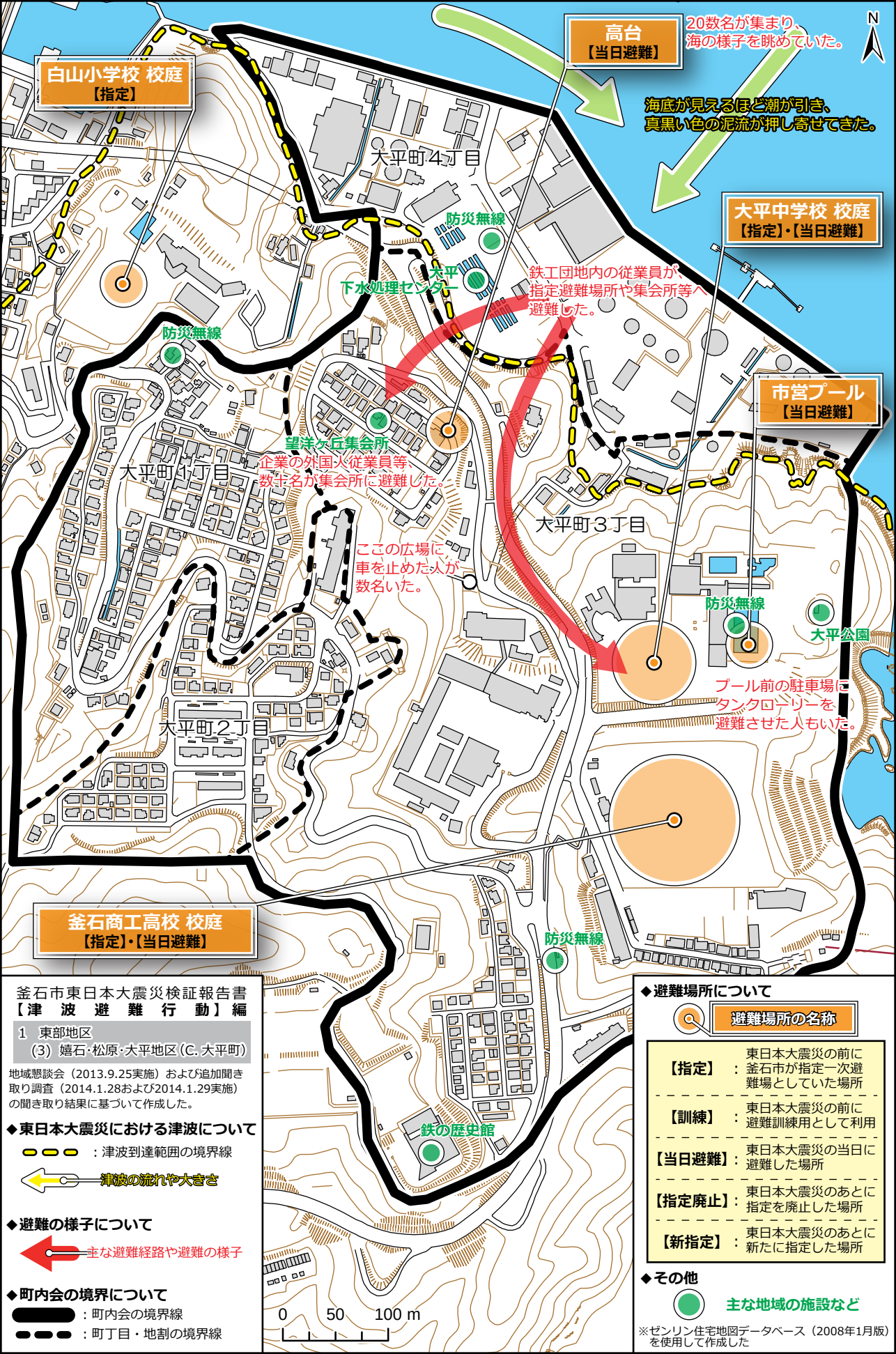
主な地域の施設など

※ゼンリン住宅地図データベース（2008年1月版）を使用して作成した


N
嬉石町２丁目
嬉石町１丁目
嬉石町３丁目
0 50 100 m
釜石市東日本大震災検証報告書
【津 波 避 難 行 動】編
1 東部地区
(3) 嬉石･松原･大平地区（A. 嬉石町）
地域懇談会（2013.9.25実施）および追加聞き取り調査（2014.2.2実施）の聞き取り結果に基づいて作成した。
◆東日本大震災における津波について
：津波到達範囲の境界線
◆町内会の境界について
：町内会の境界線
：町丁目・地割の境界線
※平成15年撮影の航空写真を使用


N
松原町３丁目では、地震直後に高齢者などが迅速に避難した。車避難者が多かった。
堤防が壊れて、津波が流れ込んできた。
津波はバリバリと大きな音を立て、黒煙、水飛沫を上げながら迫ってきた。屋根も流されてきた。
道路が渋滞したため地区の高台に逃げるように誘導したが、なかなか車から出ようとしない人もいた。
このあたりまで津波が到達して、ガレキが流されてきた。
第２波、第３波の方が比較的強かった。
神社の階段の２～３段目まで浸水した。
松原町３丁目
松原町１丁目
松原町２丁目
防災無線
避難訓練時には、地域で集まる場所として定着していた。
松原神社境内
【訓練】・【指定】・【当日避難】
墓地
葬祭場
第１波で、隣接の嬉石地区から多くのガレキや車両が押し流されてきた。車両がガレキに折り重なり、高く盛り上がった。その後、第２波が直撃し、高い水飛沫が上がった。車がプカプカ浮いていた。
高台の住民の多くは、地震直後、津波が来襲するという意識がなく、津波が湾口防波堤を越えたという情報を人づてに聞いてから、急いで避難した。
松原地区コミュニティ消防センター
松原公園
【指定】・【当日避難】
高台
【当日避難】
0
50
100 m
釜石市東日本大震災検証報告書
【津　波　避　難　行　動】編
1　東部地区
(3)　嬉石・松原・大平地区（B. 松原町）
地域懇談会（2013.9.25実施）および追加聞き取り調査（2014.2.2実施）の聞き取り結果に基づいて作成した。
◆東日本大震災における津波について
：津波到達範囲の境界線
津波の流れや大きさ
◆避難場所について
避難場所の名称
【指定】：東日本大震災の前に釜石市が指定一次避難場としていた場所
【訓練】：東日本大震災の前に避難訓練用として利用
【当日避難】：東日本大震災の当日に避難した場所
【指定廃止】：東日本大震災のあとに指定を廃止した場所
【新指定】：東日本大震災のあとに新たに指定した場所
◆避難の様子について
主な避難経路や避難の様子
◆町内会の境界について
：町内会の境界線
：町丁目・地割の境界線
◆その他
主な地域の施設など
※ゼンリン住宅地図データベース（2008年1月版）を使用して作成した


N
松原町３丁目
松原町１丁目
松原町２丁目
0
50
100 m
釜石市東日本大震災検証報告書
【津　波　避　難　行　動】編
1　東部地区
(3)　嬉石･松原･大平地区（B. 松原町）
地域懇談会（2013.9.25実施）および追加聞き取り調査（2014.2.2実施）の聞き取り結果に基づいて作成した。
◆東日本大震災における津波について
：津波到達範囲の境界線
◆町内会の境界について
：町内会の境界線
：町丁目・地割の境界線
※平成15年撮影の航空写真を使用



釜石市東日本大震災検証報告書
【津　波　避　難　行　動】編

1　東部地区
(3)　嬉石・松原・大平地区（C. 大平町）

地域懇談会（2013.9.25実施）および追加聞き取り調査（2014.1.28および2014.1.29実施）の聞き取り結果に基づいて作成した。

◆東日本大震災における津波について

：津波到達範囲の境界線

津波の流れや大きさ

◆避難の様子について

主な避難経路や避難の様子

◆町内会の境界について

：町内会の境界線

：町丁目・地割の境界線

◆避難場所について

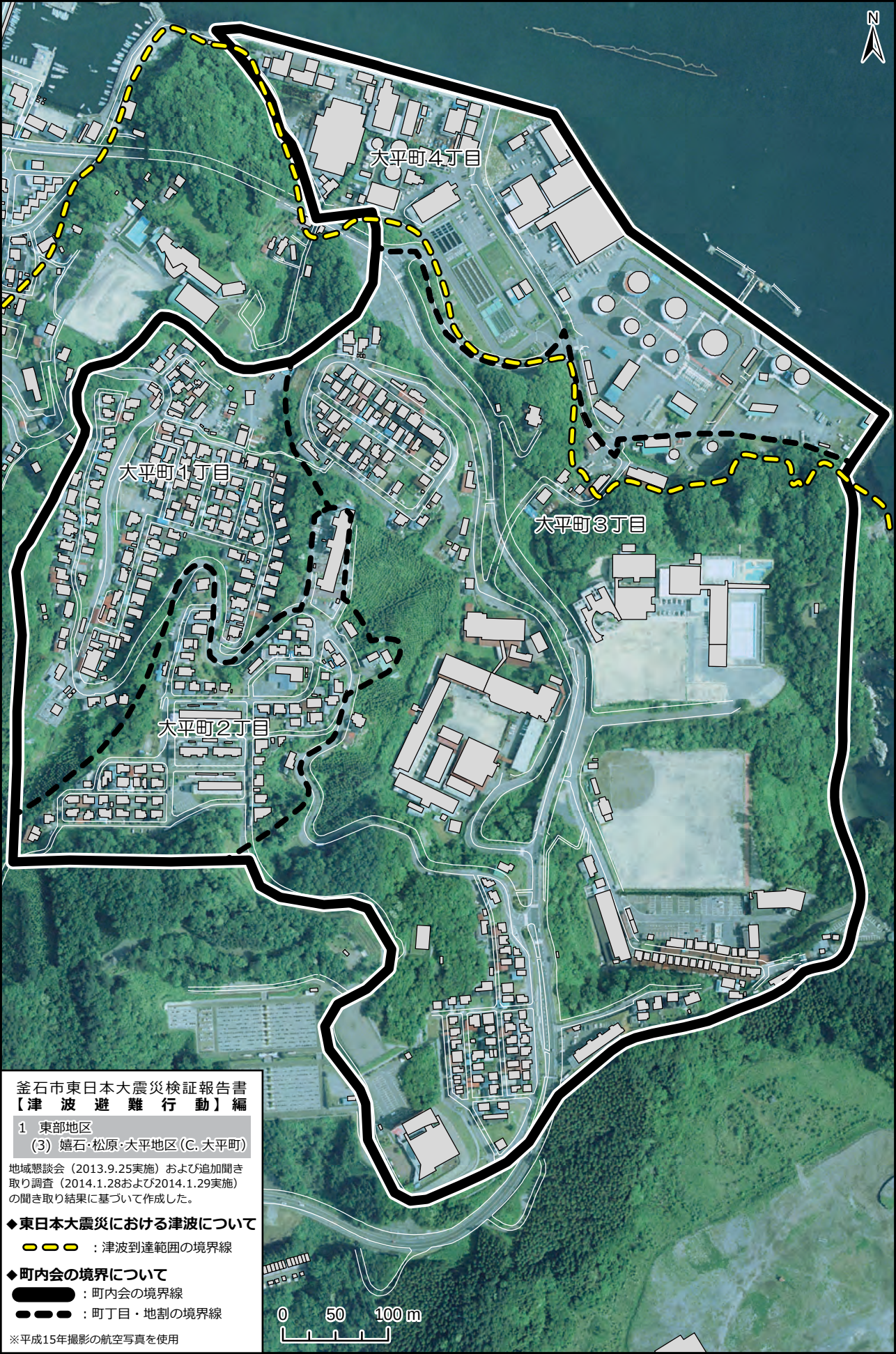
避難場所の名称

【指定】	東日本大震災の前に釜石市が指定一次避難場としていた場所
【訓練】	東日本大震災の前に避難訓練用として利用
【当日避難】	東日本大震災の当日に避難した場所
【指定廃止】	東日本大震災のあとに指定を廃止した場所
【新指定】	東日本大震災のあとに新たに指定した場所

◆その他

主な地域の施設など

※ゼンリン住宅地図データベース（2008年1月版）を使用して作成した



釜石市東日本大震災検証報告書
【津　波　避　難　行　動】編

1　東部地区
(3)　嬉石･松原･大平地区（C. 大平町）

地域懇談会（2013.9.25実施）および追加聞き取り調査（2014.1.28および2014.1.29実施）の聞き取り結果に基づいて作成した。

◆東日本大震災における津波について

：津波到達範囲の境界線

◆町内会の境界について

：町内会の境界線

：町丁目・地割の境界線

※平成15年撮影の航空写真を使用